

第 1 章 計画の概要

1 計画策定の目的

少子高齢化の進行、子どもたちの運動機会の減少による体力・運動機能の低下をはじめ、増加する高齢者世代の健康志向、ライフスタイルの多様化など、社会環境が変化する中で生涯を通したスポーツニーズが高まっています。

伊賀市では 2017（平成 29）年 3 月に「伊賀市生涯スポーツ都市宣言」を行い、心と体の健康を育むとともに、人と人の交流を深め、明るく活力に満ちた生きがいのある生活を送るため一人ひとりが生涯にわたりスポーツに親しみ、健康で明るいまちづくりを推進しています。

また、2021（令和 3）年に開催される「三重とこわか国体」では、伊賀市でハンドボール（少年女子）、軟式野球（成年男子）、サッカー（女子）、クレー射撃（成年）、剣道（全種別）などの競技が行われ、その国体の気運の高まりを契機とし、今後のスポーツ振興を図るための施設整備や施策を整えていく必要があります。

一方、これらを支える施設環境について見てみると、2004（平成 16）年 11 月に 1 市 3 町 2 村が合併し、各市町村が所有していた公共施設がほぼそのまま引き継がれ、（注 1）スポーツ施設においても多くの類似施設を有することになりました。

現在、伊賀市のスポーツ施設は 33 施設あり、そのうち設置 30 年以上の施設が約 6 割を占め、さらに今後 10 年間で新たに 7 施設が設置後 30 年を迎え老朽化した施設がさらに増加することから、日常の維持管理費用や改修費等の増大が避けられない厳しい状況です。

国においても、「インフラ長寿命化基本計画」に基づき道路や公共施設など中長期にわたる効率的な維持管理による財政負担の平準化をめざす方向性が示され、スポーツ施設においてもその個別方針として「（注 2）スポーツ施設のストック適正化ガイドライン（以下「ガイドライン」という。）」が示されています。

伊賀市においても、市民の多様なスポーツニーズにも配慮しつつ、2015（平成 27）年 3 月に策定された伊賀市公共施設最適化計画の方針を踏まえ、安全性や老朽化などの施設躯体の状況をはじめ、機能性や経済性といった既存施設の現状・課題などについて把握を行うとともに、誰もが気軽かつ快適に利用できる施設を中長期にわたり効率的に維持・整備するため、施設立地状況やスポーツニーズ調査結果も参考に、伊賀市スポーツ施設再編・整備計画（伊賀市スポーツ施設ストック適正化計画）を策定します。

（注 1） スポーツ施設とは、「伊賀市体育施設条例（平成 16 年 条例第 254 号）」に定める施設をいう。

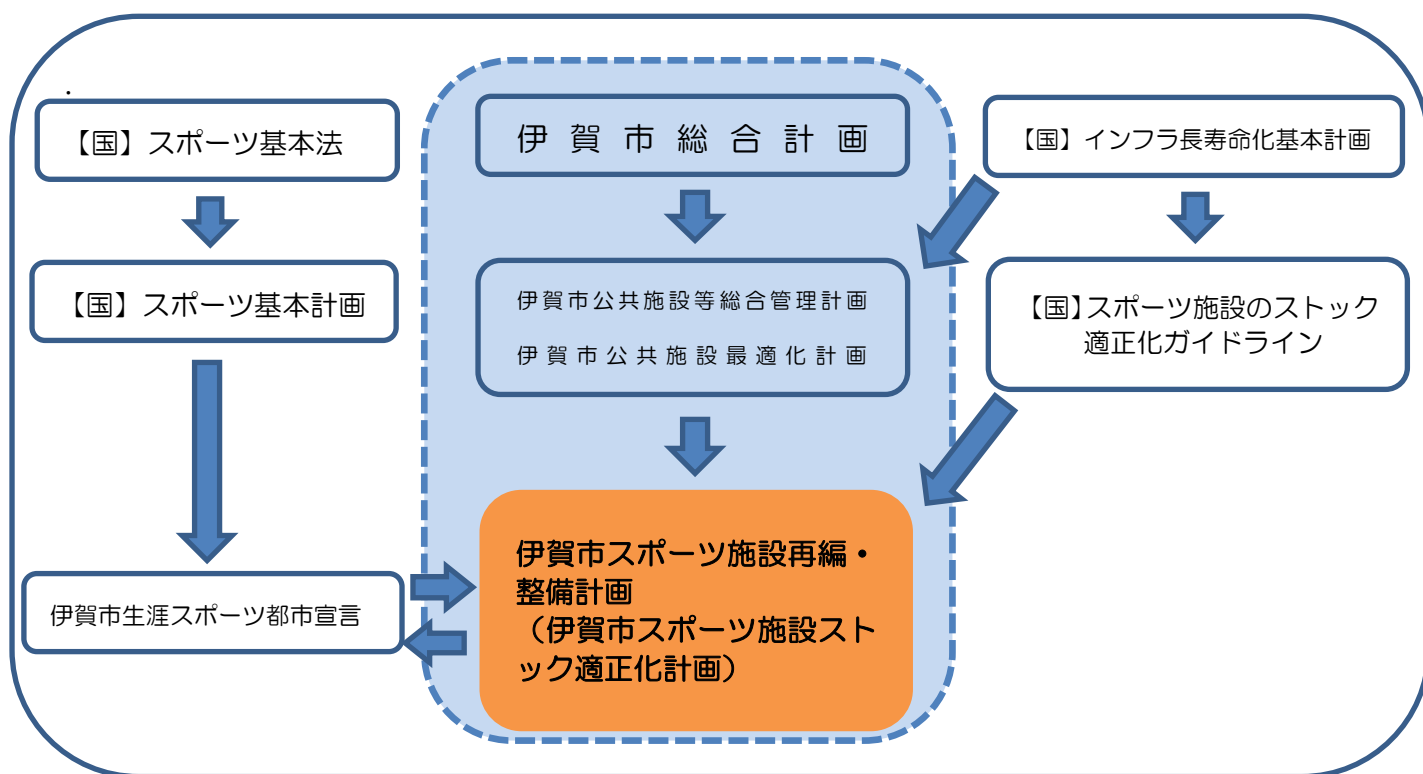
（注 2） スポーツ施設のストック適正化ガイドラインとは、「インフラ長寿命化基本計画（平成 25 年 関係省庁連絡会議）」に基づき、スポーツ庁が作成したスポーツ施設の長寿命化など施設整備の指針となるもの

2 計画の位置づけと対象施設

本計画は、伊賀市生涯スポーツ都市宣言の実現に向け、「伊賀市公共施設最適化計画」や、国のガイドラインを踏まえながら持続可能なスポーツ施設の運営を図るため、今後の伊賀市が管理・運営するスポーツ施設の再編と整備の指針となるものです。

なお、スポーツ施設の再編・整備にあたっては、公の施設としての市立小・中学校の体育館等の施設（以下『学校体育施設』という。）や「三重県立ゆめドームうえの」、また民間のスポーツジムやプール等、公と民間との役割分担にも配慮しながら実施することとします。

【各計画との関係図】



3 計画の期間

本計画の期間は、2021（令和3）年度から2030（令和12）年度までの10年間とし、実施予定時期を前期・後期の各5年間とします。

ただし、社会情勢の変化や財政状況に応じて、変更が必要になったときは、その都度見直すこととします。

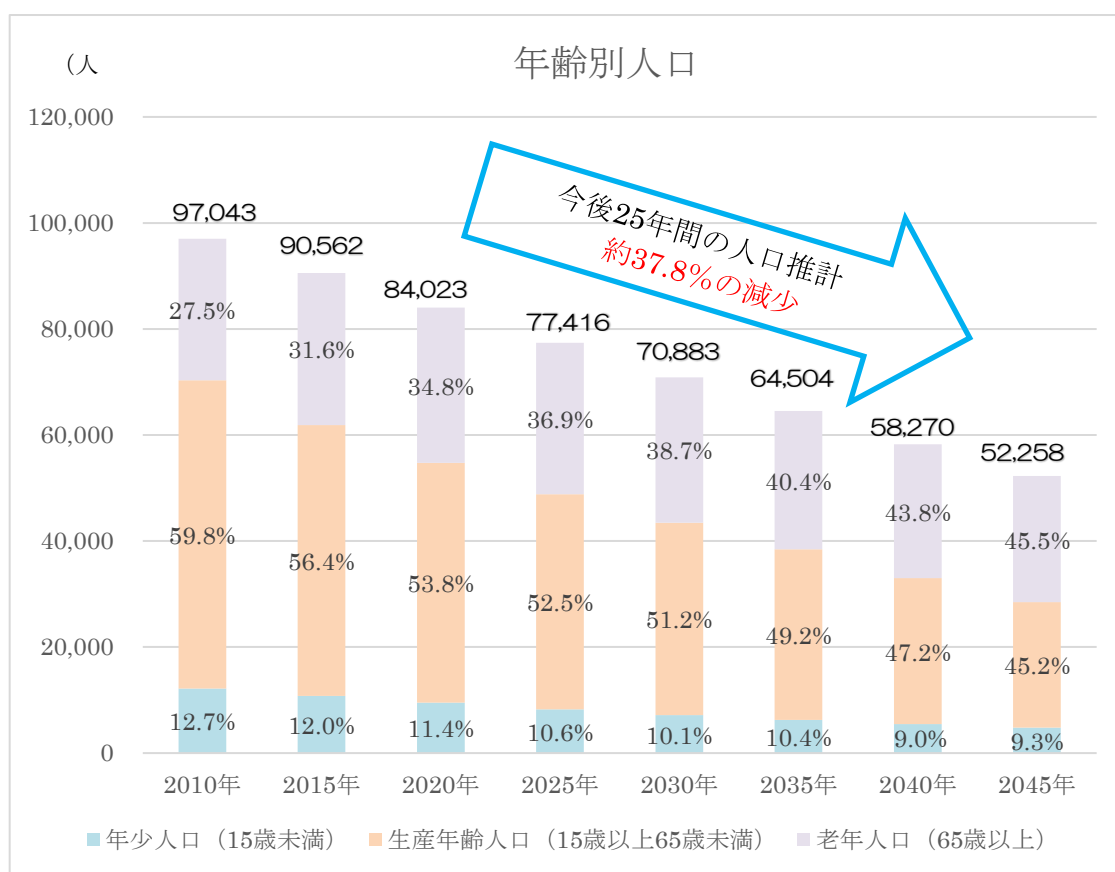
計画期間 2021（令和3）年度から2030（令和12）年度

第2章 スポーツ施設をとりまく現状と課題

1 人口推移と人口構成

国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の地域別将来推計人口（2018年3月推計）」によると、本市の人口は、減少傾向にあり、2020（令和2）年から2045（令和27）年までの25年間に於いて、31,765人（37.8%）が減少し、約52,000人余りになると見込まれています。

年齢構成別の人口割合の推移をみると、年少人口割合と生産年齢人口割合がともに減少する中で、老年人口割合は増加で推移することから、伊賀市においても人口に占める老年人口は（注3）超高齢社会を歩む状況となっています。



＜出典：国立社会保障・人口問題研究所による2018年3月時点推計＞

（注3） 超高齢社会とは、65歳以上人口の割合が21%超（WHO（世界保健機関）と国連の定義による）。
参考：「高齢化社会」・・・65歳以上人口の割合が7%超
「高齢社会」・・・65歳以上人口の割合が14%超

2 多様なスポーツニーズ

近年の少子高齢化による人口減少により、今後スポーツ実施人口が減少していくことが予想される一方、健康志向の高まりや従来の種目にとらわれないオリンピックでの新しい競技種目が追加されてくること、サッカーや野球など団体で行う種目以外にも、ウォーキングやジョギング、トレイルランニングなど個人で行う種目などへの多様なニーズがあります。

このため、従前の施設を活用したスポーツから、施設が無くても身近な環境を活用したスポーツや、ボッチャなど障がいがあっても参加できるパラスポーツ、あるいはキンボールなど新たなルールやスタイルで行うニュースポーツやレクリエーション競技への関心も高まってきています。

また、スポーツ実施環境としての施設だけでなく、全市民がより高い技術を間近で見ることができる「見るスポーツ」の振興を図るための施設環境整備が必要です。

一方、2019 年から世界的流行が始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、日本においても感染が広まり、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会をはじめ各種スポーツイベントの延期や中止、スポーツ施設の利用中止など大きな影響をもたらしています。今後も感染防止を図りながらスポーツの実施に向け、(注4)「新しい生活様式」の考え方を取り入れたスポーツ実施環境を整備していくことが求められています。

（注4） 新しい生活様式とは、飛沫感染や接触感染、さらには近距離の会話などへの対策をこれまで以上に日常生活に取り入れた生活様式。

3 スポーツ施設の状況

(1) スポーツ施設の状況と管理

伊賀市内のスポーツ施設は 33 施設が設置され、その施設種別では、競技場 1 施設、野球場 1 施設、体育館 6 施設、多目的グラウンド 10 施設、テニスコート 6 施設、ゲートボール場 3 施設、水泳プール 2 施設、武道場 1 施設、弓道場 1 施設、艇庫 2 施設となっています。

清掃、簡易修繕等の維持管理及び、利用受付や許可・料金収納については、29 施設を指定管理者に委託し、4 施設は、市直営で管理を行っています。

ア 伊賀市スポーツ施設一覧

施設種別 ○ は施設数	施設番号	設置地区	施設名	整備年	施設規模・設備概要 () は、単一競技利用の場合における取得可能な目安	駐車台数	・利用者の概要 ・管理形態（指定管理、市直営管理）
競技場 (1)	1	上野	上野運動公園競技場	(1975) 1998 大規模改修	面積 13,740 m ² ・トラック⇒クレイ系舗装 (専用 400m×8レーン) ・フィールド⇒天然芝 (大人用サッカーコート 1 面)	120	サッカー「FCくノ一三重」や大会による利用 (指定管理)
野球場 (1)	2	上野	上野運動公園野球場	(1963) 1997 大規模改修	面積 13,000 m ² 両翼 104m 中央 125m 外野天然芝、照明設備有	70	少年・一般者の大会 (指定管理)
体育館 (6)	3	上野	伊賀市民体育館	(2000) 2017	競技フロア面積 1,415 m ² (9人制バレーボールコート 2 面)	47	一般利用が多い (指定管理)
	4	阿山	阿山 B&G 海洋センター体育館	1989	競技フロア面積 726 m ² (6人制バレーボールコート 2 面)	200 ◆	一般利用が多い (指定管理)
	5	大山田	大山田 B&G 海洋センター体育館	1988	競技フロア面積 726 m ² (6人制バレーボールコート 2 面)	150 ◆	一般利用が多い 地域小中学校利用 (指定管理)
	6	大山田	大山田東体育館	1994	競技フロア面積 923 m ² (6人制バレーボールコート 2 面)	17 ◆	地域利用が多い (指定管理)
	7	青山	青山児童屋内運動場	1982	競技フロア面積 572 m ² (6人制バレーボールコート 2 面)	20 ◆	地域利用が多い (市直営管理)
	8	青山	青山高尾体育館	1988	競技フロア面積 741 m ² (6人制バレーボールコート 2 面)	20 ◆	地域利用が多い (市直営管理)
多目的 グラウンド (10)	9	上野	ゆめが丘多目的広場	2000	面積 12,354 m ² 天然芝、仮設照明設備有 (大人サッカーコート 1 面)	97	少年サッカーの利用が多い (指定管理)
	10	上野	しらさぎ運動公園屋内 多目的グラウンド	2014	面積 4,540 m ² クレイ系舗装 (ゲートボールコート 9 面) 屋内施設で照明設備有	240 ◆	グラウンドゴルフ、ゲートボールの利用が多い (指定管理)
	11	島ヶ原	島ヶ原運動広場	2007	面積 8,530 m ² 両翼 85m クレイ系舗装 (子供用サッカーコート 1 面)	30	少年野球の練習での利用が多い (指定管理)

施設 種別 ○は施設数	施設 番号	設置 地区	施 設 名	整備年	施設規模・設備概要 () は、単一競技利用の場合に おける取得可能な目安	駐車 台数	・利用者の概要 ・管理形態（指定管 理、市直営管理）
多目的 グラウンド	12	伊 賀	いがまちスポーツセ ンターグラウンド	1992	面積 21,600 m ² クレイ系舗装 照明設備有 (400m×8レーントラック、 大人用サッカーコート2面、ソフ トボールコート2面)、	250 ◆	少年サッカー利用が 多い。総合型スポーツ クラブの活動拠点。 高校のクラブ活動で の利用がある (指定管理)
	13	阿 山	阿山第1運動公園 グラウンド	1983	面積 15,400 m ² クレイ系舗装 照明設備有 (子供用サッカーコート2面)	200 ◆	少年野球、サッカーの 利用が多い (指定管理)
	14	阿 山	阿山第2運動公園 グラウンド	1988	面積 15,000 m ² 天然芝、 (大人用サッカーコート1面)	200 ◆	少年サッカーの利用 が多い (指定管理)
	15	大山田	大山田東グラウンド	学校 開設時	面積 5,960 m ² クレイ系舗装 照明設備有 (子供用サッカーコート1面)	17 ◆	地域利用が多い (指定管理)
	16	青 山	青山グラウンド	1997	面積 19,567 m ² クレイ系舗装 照明設備有 (400m×6レーントラック、 大人用サッカー1面、ソフトボ ール2面、野球1面)、	115	少年野球、サッカーの 利用が多い。高校クラ ブでの利用がある (指定管理)
	17	青 山	青山高尾グラウンド	学校 開設時	面積約 6,000 m ² クレイ系舗装 照明設備有 (子供用サッカーコート1面)	20 ◆	地域利用が多い (市直営管理)
	18	青 山	青山矢持グラウンド	学校 開設時	面積約 6,000 m ² クレイ系舗装 照明設備有 (子供用サッカーコート1面)	20 ◆	地域利用が多い (市直営管理)
テニス コート (6)	19	上 野	上野運動公園 テニスコート	1980	コート6面、(人工芝6面) 照明設備	16	一般利用が多い (指定管理)
	20	上 野	上野緑ヶ丘 テニスコート	1956	クレイコート3面	0	一般利用、中学校クラ ブでの利用が多い (指定管理)
	21	上 野	ゆめが丘 テニスコート	1997	人工芝コート4面 照明設備有	60	一般利用が多い (指定管理)
	22	伊 賀	いがまちスポーツセ ンターテニスコート	1992	人工芝コート2面、ハードコート 3面、照明設備有	250 ◆	一般利用が多い (指定管理)
	23	阿 山	阿山第1運動公園 テニスコート	1983	人工芝コート2面 照明設備有	200 ◆	一般利用が多い (指定管理)
	24	青 山	青山テニスコート	1980代	ハードコート3面	50	ほぼ利用が無い (指定管理)
ゲート ボール 場 (3)	25	上 野	しらさぎ運動公園 ゲートボール場	2014	コート2面	240 ◆	ほぼ利用が無い (指定管理)
	26	伊 賀	いがまちスポーツセ ンターゲートボール 場	1992	コート2面	250 ◆	ほぼ利用が無い (指定管理)
	27	阿 山	阿山第1運動公園 ゲートボール場	1996	コート2面 屋内施設で照明設備有	200 ◆	一般利用が多い (指定管理)

施設 種別 ○は施設数	施設 番号	設置 地区	施 設 名	整備年	施設規模・設備概要 () は、単一競技利用の場合に おける取得可能な目安	駐車 台数	・利用者の概要 ・管理形態（指定管 理、市直営管理）
プール (2)	28	阿 山	阿山 B&G 海洋センタープール	1989	一般用 25m 6コース 幼児用 10m×6m	200 ◆	夏季のみ一般開放 (指定管理)
	29	大山田	大山田 B&G 海洋センタープール	1988	一般用 25m 6コース 幼児用 10m×6m	150 ◆	夏季のみ一般開放 (指定管理)
武道場 (1)	30	上 野	伊賀上野武道館	1983	フロア面積 1,472 m ² (柔道場2面、剣道場1面)	50	一般利用が多い。新体 操教室などの武道以 外での利用もある (指定管理)
弓道場 (1)	31	上 野	伊賀市民弓道場	(1973) 2017 大規模改修	9人立ち	33	競技団体での利用が 多い (指定管理)
艇 庫 (2)	32	阿 山	阿山 B&G 海洋センター艇庫	1989	倉庫 190 m ²	30	主に夏季の一般利用 (指定管理)
	33	大山田	大山田 B&G 海洋センター艇庫	1988	倉庫 190 m ²	30	主に夏季の一般利用 (指定管理)

※整備年欄の () は、初期の建設年を表し、下段は機能保全等を目的に大規模改修を行った年を表している。

※駐車台数欄の◆は、同一敷地にある他施設との共同利用台数である。なお区画線等が無い場合でも、現地の状況からの概ねの駐車可能台数とする。

イ 施設ごとの実施可能な主な種目

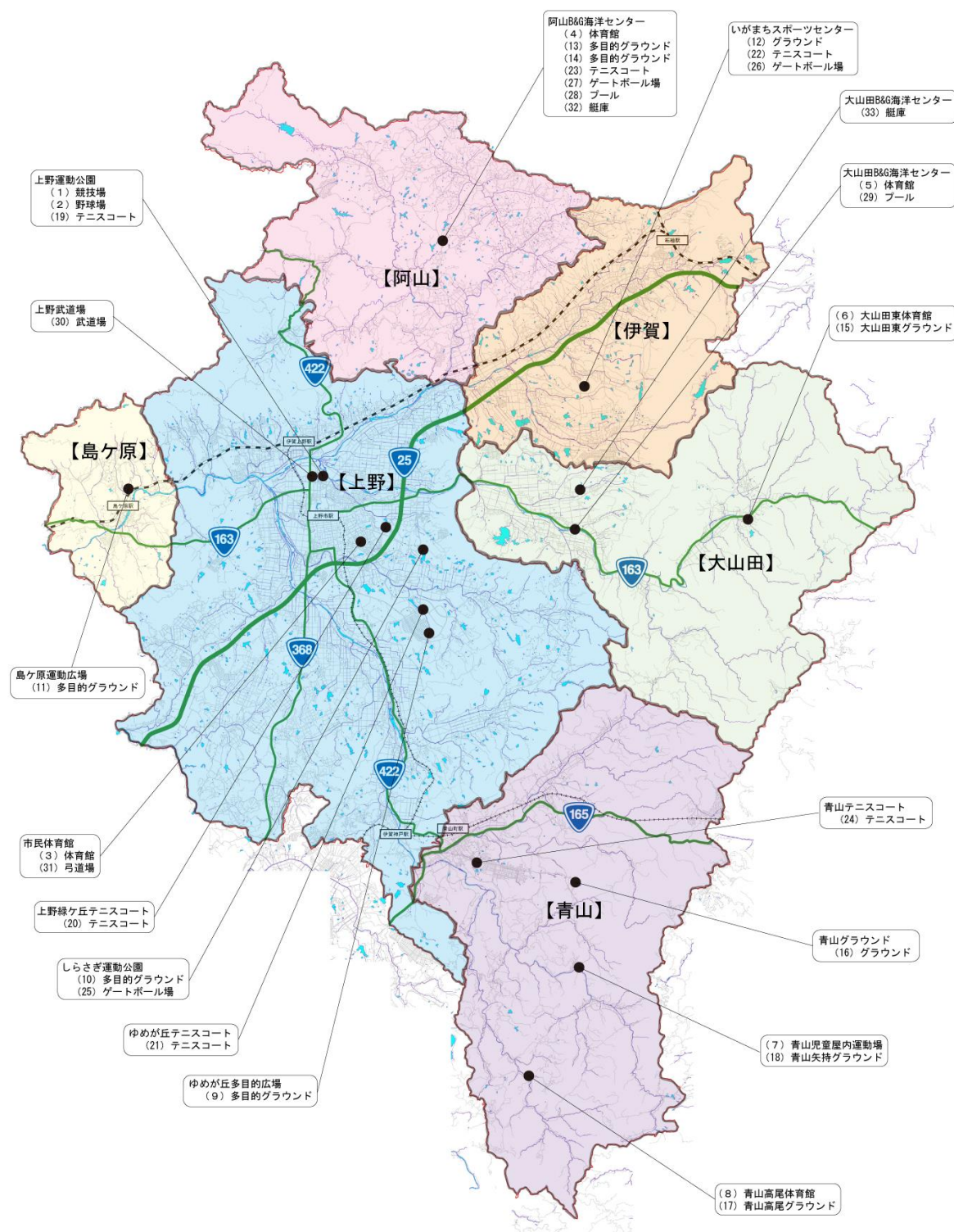
設 置 地 区	施 設 番 号	施 設 名	施 設			陸上 競 技	バ レー ボ ール	バ ド ミ ン ト ン	バ ス ケ ッ ト ボ ール	卓 球	野 球	サ ッ カ ー	フ ット サ ル	ソ フ ト ボ ール	テ ニ ス	水 泳	グ ラ ウ ン ド ゴ ル フ	ゲ ート ボ ール	そ の 他	そ の 他 の 種 目 名
			屋 内 施 設	屋 外 施 設	照 明 (屋 外)															
上 野	1	上野運動公園競技場		●		●						●					●	●		
	2	上野運動公園野球場		●	●						●			●			●			
	3	伊賀市民体育館	●				●	●	●	●			●		●					
	9	ゆめが丘多目的広場		●	●							●					●			
	10	しらさぎ運動公園 屋内多目的グラウンド	●												●		●	●		
	19	上野運動公園テニスコート		●	●										●					
	20	上野緑ヶ丘テニスコート		●											●					
	21	ゆめが丘テニスコート		●	●										●					
	25	しらさぎ運動公園 ゲートボール場		●														●		
	30	伊賀上野武道館	●																●	柔道 剣道
	31	伊賀市民弓道場	●																●	弓道

設置地区	施設番号	施設名	施設			陸上競技	バレーボール	バドミントン	バスケットボール	卓球	野球	サッカー	フットサル	ソフトボール	テニス	水泳	グラウンドゴルフ	ゲートボール	その他	その他の種目名
			屋内施設	屋外施設	照明(屋外)															
島ヶ原	11	島ヶ原運動広場		●							●	●		●			●			
伊賀	12	いがまちスポーツセンターグラウンド		●	●	●					●	●		●			●			
	22	いがまちスポーツセンターテニスコート		●	●										●					
	26	いがまちスポーツセンターゲートボール場		●														●		
阿山	4	阿山B&G海洋センター体育館	●				●	●	●				●						●	ニュースポーツ
	13	阿山第1運動公園グラウンド		●	●						●	●		●			●	●		
	14	阿山第2運動公園グラウンド		●								●								
	27	阿山第1運動公園ゲートボール場	●												●			●		
	23	阿山第1運動公園テニスコート		●	●										●					
	28	阿山B&G海洋センタープール	●													●				
	32	阿山B&G海洋センター艇庫	●																●	カヌー
大山田	5	大山田B&G海洋センター体育館	●				●	●	●				●						●	ニュースポーツ
	6	大山田東体育館	●				●		●				●							
	15	大山田東グラウンド		●	●						●	●								
	29	大山田B&G海洋センタープール	●													●				
	33	大山田B&G海洋センター艇庫	●																●	カヌー
青山	7	青山児童屋内運動場	●				●		●											
	8	青山高尾体育館	●				●		●											
	16	青山グラウンド		●	●	●					●	●		●			●	●		
	17	青山高尾グラウンド		●	●												●	●		
	18	青山矢持グラウンド		●	●												●	●		
	24	青山テニスコート		●											●					

※ ●印が無い場合でも、競技に必要な道具があれば実施可能な種目もある。

(2) スポーツ施設の配置状況

伊賀市スポーツ施設 現況図



(3) スポーツ施設の利用状況

スポーツ施設全体で見ると、総利用者数は減少傾向にあります。

2019（令和元）年度では、年間 10,000 人以上の利用がある施設は 9 施設、5,000 人以上 10,000 人未満が 8 施設、1,000 人以上 5,000 人未満が 5 施設、1,000 人未満が 11 施設となっています。

次に、同じ施設種別のグループで比較した場合、利用者数に大きな差が見られ、比較的規模が大きな施設ほど利用者数が多くなる傾向がみられます。

施設 種別	施設 番号	設置 地区	施設名	H27 年度 (2015)	H28 年度 (2016)	H29 年度 (2017)	H30 年度 (2018)	R 1 年度 (2019)
競技場 (1)	1	上 野	上野運動公園競技場	20,376	22,864	19,661	24,936	16,761
野球場 (1)	2	上 野	上野運動公園野球場	11,095	10,657	10,067	10,029	8,793
体育館 (6)	3	上 野	伊賀市民体育館	24,813	23,252	23,270	25,831	23,112
	4	阿 山	阿山 B&G 海洋センター体育館	21,325	21,280	21,477	18,926	20,790
	5	大山田	大山田 B&G 海洋センター体育館	12,505	12,848	14,084	17,084	14,468
	6	大山田	大山田東体育館	1,472	1,482	1,191	1,769	1,679
	7	青 山	青山児童屋内運動場	1,080	1,688	988	566	629
	8	青 山	青山高尾体育館	722	281	266	688	724
多目的 グラウ ンド (10)	9	上 野	ゆめが丘多目的広場	14,020	17,173	12,283	9,837	8,826
	10	上 野	しらさぎ運動公園 屋内多目的グラウンド	22,691	16,607	19,076	21,040	19,191
	11	島ヶ原	島ヶ原運動広場	6,039	5,831	5,261	6,142	6,551
	12	伊 賀	いがまちスポーツセン ターグラウンド	19,924	18,047	18,048	17,218	14,269
	13	阿 山	阿山第 1 運動公園 グラウンド	23,796	50,955	49,996	44,222	44,004
	14	阿 山	阿山第 2 運動公園 グラウンド	7,697	8,179	7,871	13,945	12,419
	15	大山田	大山田東グラウンド	1,027	730	382	627	654
	16	青 山	青山グラウンド	13,872	13,834	12,108	12,027	9,787
	17	青 山	青山高尾グラウンド	711	713	524	522	475
	18	青 山	青山矢持グラウンド	1,163	1,131	571	1,271	741

施設 種別	施設 番号	設置 地区	施設名	H27 年度 (2015)	H28 年度 (2016)	H29 年度 (2017)	H30 年度 (2018)	R 1 年度 (2019)
テニス コート (6)	19	上 野	上野運動公園 テニスコート	10,167	8,850	8,111	7,750	8,520
	20	上 野	上野緑ヶ丘 テニスコート	13,587	10,950	11,358	9,257	9,730
	21	上 野	ゆめが丘テニスコート	8,355	7,493	5,952	4,974	5,212
	22	伊 賀	いがまちスポーツセン ターテニスコート	1,337	1,178	878	742	828
	23	阿 山	阿山第 1 運動公園 テニスコート	2,346	1,526	1,606	1,485	1,354
	24	青 山	青山テニスコート	236	275	225	210	169
ゲート ボール 場 (3)	25	上 野	しらさぎ運動公園 ゲートボール場	—	0	0	25	6
	26	伊 賀	いがまちスポーツセン ターゲートボール場	705	339	160	0	20
	27	阿 山	阿山第 1 運動公園 ゲートボール場	55,602	57,913	60,112	55,113	51,875
プール (2)	28	阿 山	阿山 B&G 海洋センタープール	2,843	3,016	2,365	2,614	3,097
	29	大山田	大山田 B&G 海洋センタープール	4,527	4,411	4,474	4,437	2,717
武道場 (1)	30	上 野	伊賀上野武道館	8,104	7,710	8,381	7,058	8,267
弓道場 (1)	31	上 野	伊賀市民弓道場	3,677	2,091	4,115	2,899	2,288
艇 庫 (2)	32	阿 山	阿山 B&G 海洋センター艇庫	129	128	145	87	71
	33	大山田	大山田 B&G 海洋センター艇庫	50	92	111	195	0
合 計				315,993	333,524	325,117	323,526	298,027

＜参考＞市立学校体育施設の利用状況

市内にある小・中学校の学校体育施設は、市民のスポーツ活動の場などとして広く開放しています。

2019（令和元）年度の利用状況は、グラウンド利用が約 56,000 人、体育館利用が約 136,000 人となっており、両施設を合わせ約 192,000 人が利用しています。

直近の利用者数をみると、利用者数は減少傾向にあります。

学校名	H29 年度（2017）				H30 年度（2018）				R1 年度（2019）			
	グラウンド		体育館		グラウンド		体育館		グラウンド		体育館	
	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数
上野東	328	14,550	570	15,423	324	13,350	601	17,696	299	12,430	581	16,760
上野西	50	2,200	472	7,504	21	905	410	7,139	23	422	277	5,494
久米	76	1,164	143	2,248	163	4,097	94	1,319	59	1,060	194	3,068
長田	198	3,311	145	2,591	149	2,318	158	2,378	141	1,883	126	1,704
新居	49	747	218	3,287	41	423	214	3,078	0	0	121	2,434
府中	93	2,873	124	2,040	110	3,034	97	1,749	71	2,095	84	1,175
中瀬	67	1,641	288	4,305	29	1,560	285	3,883	16	241	289	3,987
友生	254	10,920	380	9,046	270	12,160	330	5,039	195	11,450	248	3,967
依那古	145	3,949	182	2,083	156	5,019	149	1,738	114	3,706	111	1,696
神戸	149	2,215	88	821	91	1,445	149	1,460	134	2,183	182	1,871
成和東	190	3,765	78	1,022	195	4,078	84	1,319	171	3,495	158	2,413
成和西	117	2,093	185	3,179	128	2,056	161	3,265	127	2,067	201	4,026
三訪	61	626	104	1,370	44	678	86	1,104	23	305	62	801
柘植	12	220	104	1,924	12	237	70	1,506	2	89	51	922
西柘植	107	3,210	126	1,760	110	3,260	125	2,397	87	2,610	101	1,947
壬生野	29	581	153	2,309	5	53	71	1,196	20	286	73	1,174
玉滝	46	1,748	47	1,501	44	1,194	42	1,512	48	1,407	24	765
阿山	78	2,964	300	10,271	83	2,490	264	6,886	90	2,700	320	7,296
大山田	8	224	270	5,782	0	0	280	4,996	0	0	254	4,357
青山	81	3,150	562	12,346	73	2,210	583	12,873	83	1,972	487	11,412
小 学 校 合 計	2,138	62,151	4,539	90,812	2,048	60,657	4,253	82,533	1,703	50,401	3,944	77,269
崇広	123	2,545	325	5,230	1	30	459	8,919	42	1,338	312	8,317
緑ヶ丘	0	0	403	7,526	0	0	439	8,715	0	0	426	10,007
城東	0	0	658	17,566	4	460	699	17,387	3	240	752	22,149
上野南	2	60	419	6,436	0	0	499	7,859	0	0	438	6,239
柘植	111	2,243	181	2,033	135	3,455	115	1,763	63	2,378	125	2,574
霊峰	0	0	154	2,154	1	15	150	2,764	0	0	205	2,906
島ヶ原	105	2,003	145	1,728	124	2,472	113	1,209	104	1,743	84	913
阿山	1	30	93	1,096	2	100	76	840	0	0	82	980
大山田	81	1,060	39	425	41	614	123	1,352	6	91	160	1,459
青山	0	0	296	5,389	146	2,536	128	1,607	0	0	232	3,376
中 学 校 合 計	423	7,941	2,713	49,583	454	9,682	2,801	52,415	218	5,790	2,816	58,920
小中学校 総合計	2,561	70,092	7,252	140,395	2,502	70,339	7,054	134,948	1,921	56,191	6,760	136,189
	9,813 回		210,487 人		9,556 回		205,287 人		8,681 回		192,380 人	

(4) 近隣市におけるスポーツ施設設置状況

隣接市及び県内で市町村合併を行った主な市が設置する施設数は次のとおりです。

施設あたりの人口で比較した場合、伊賀市では 2,731 人となっており、合併市町村数が多くなるほど施設数が多くなる傾向にあります。

項目 市名	伊賀市	名張市	亀山市	桑名市	伊勢市	いなべ市	志摩市	滋賀県 甲賀市
人口(人) R2.9.1 現在	90,149	77,766	49,620	141,701	124,581	43,348	48,631	90,300
市町村 合併有無	有り (6市町村)	無し (一)	有り (1市1町)	有り (1市2町)	有り (1市3町)	有り (4町)	有り (4町)	有り (5町)
サッカー 場・陸上 競技場	1	1		2	1	1		2
野球場	1	1	1	5	2	3	1	4
体育館	6	5	3	2	4	3	9	8
多目的グ ラウンド	10	5	3	5	2	7	7	9
テニス コート (面数)	6 (23)	4 (15)	3 (10)	6 (30)	2 (16)	2 (8)	5 (22)	7 (30)
ゲートボ ール 場 (面数)	3 (6)	3 (4)	1 (1)			1 (2)	1 (1)	
プール	2	1	2	2	2	2	3	2
武道関係 施設	2	1		1	1	4	1	1
その他の 施設	2	3	1	4	2	1		2
施設合計	33	24	14	27	16	24	27	35
1 施設当 たり人口	2,731 人/所	3,240 人/所	3,544 人/所	5,248 人/所	7,786 人/所	1,806 人/所	1,801 人/所	2,580 人/所

※各市のスポーツ（体育）施設や都市公園設置条例等に規定されているもののうち、専ら有償でスポーツ利用に供されている施設数を計上している。なお無償での自由利用による施設は省いているため、条例上の数と合わない場合がある。

※総合運動公園など複数の施設が1カ所に集約設置され、条例等では1施設とされている場合でも、各種目施設別で計上している。

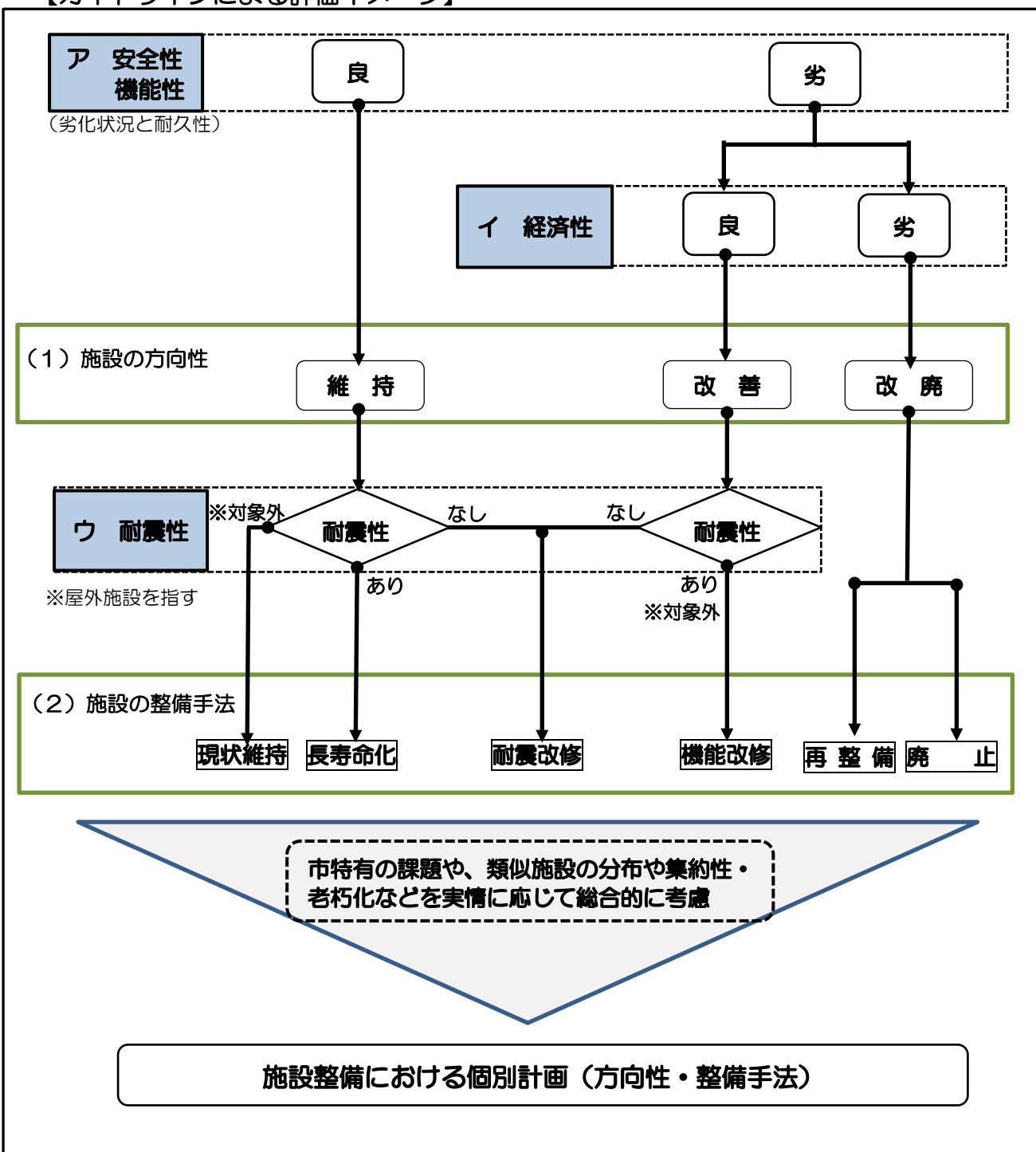
4 スポーツ施設の評価

(1) 施設の評価

各スポーツ施設の現状について、ガイドラインを活用し、スポーツ施設の安心・安全のために必要となる最小限の基礎情報に基づき、①安全性・機能性（劣化状況と耐久性）、②経済性、③耐震性の3つの側面から評価を行います。

これにより客観的に今後の施設整備の方向性と整備手法が示されることとなりますが、さらに伊賀市の実情（類似施設の分布状況、集約性・老朽化状況など）を加味し、最終的に施設個別の方向性を取りまとめることとします。

【ガイドラインによる評価イメージ】



ア 安全性・機能性

施設の安全性や機能性、法令適合性、バリアフリーの状況について「A・B・C・D」の4段階による評価を行います。

なお、屋外施設については、「公園施設長寿命化計画策定指針（平成 30 年国土交通省都市局公園緑地・景観課）」による健全度に関する事項を準用します。

評価項目／評価段階		A	B	C	D
屋内スポーツ施設の安全性・機能性等	躯体の安全性・外被性能（建築）及び経過年数 1. 躯体の劣化の状況（剥離、ひび割れ）、漏水、外壁（剥離、落下） 2. 築後の経年数（法定耐用年数）により評価分類 RC（鉄筋）：47年 S（鉄骨）：34年 木造：22年 ◆1・2で異なる場合は、低い方の評価とする。	1. 全体的に健全である。 ※緊急の補修の必要はないため、日常の維持保全で管理するもの 及び 2. 現時点で耐用年数を半分以上残している RC：（建設後 20 年未満） S：（建設後 15 年未満） 木造：（建設後 10 年未満）	1. 全体的に健全だが、部分的に劣化が進行している。 ※緊急の補修の必要はないが、維持保全での管理の中で、劣化部分について定期的な観察が必要なもの 及び 2. 耐用年数の半分が経過し、10 年後には老朽化が進む RC：（建設後 20 年～40 年） S：（建設後 15 年～30 年） 木造：（建設後 10 年～20 年）	1. 全体的に劣化が進行している。 ※現時点では重大な事故につながらないが、利用し続けるためには部分的な補修又は更新が必要なもの 及び 2. 耐用年数が近い施設 RC：（建設後 40 年～47 年） S：（建設後 30 年～34 年） 木造：（建設後 20 年～22 年）	1. 全体的に顕著な劣化である。 ※重大な事故につながる恐れがあり、公園施設の利用禁止又は緊急な補修若しくは更新が必要とされるもの 及び 2. 耐用年数を過ぎている。
	室内環境性能（電気・機械） 下記の室内環境性能により評価分類 1. 室内環境（空調 衛生 音 光） 2. 機器類劣化の状況 3. 付帯設備（トイレ、シャワー、更衣室等）の整備状況 ◆1・2・3で異なる場合は、低い方の評価とする	全体的に健全である。 及び ※付帯設備が整備されている	全体的に健全だが、部分的に劣化が進行している。 及び ※トイレのみ整備されている	全体的に劣化が進行している。 及び ※付帯設備がない	全体的に顕著な劣化である。 及び ※付帯設備がない
	法令適合性	点検の結果異常なし	点検の結果、不備等があるが対応が実施	異常があるが、対応がされていない	異常があるが、対応がされていない

評価項目／評価段階			A	B	C	D
屋外スポーツ施設の健全度	安全対策・機能性	グラウンド、テニスコート、ゲートボール場等の屋外施設は、表層やフェンス等の経年劣化による老朽化状況を評価分類	全体的に健全である。 ※緊急の補修の必要はないため、日常の維持保全で管理するもの	全体的に健全だが、部分的に劣化が進行している。 ※緊急の補修の必要はないが、維持保全での管理の中で、劣化部分について定期的な観察が必要なもの	全体的に劣化が進行している。 ※現時点では重大な事故につながらないが、利用し続けるためには部分的な補修又は更新が必要なもの	全体的に顕著な劣化である。 ※重大な事故につながる恐れがあり、施設の利用禁止又は緊急な補修若しくは更新が必要とされるもの
その他（屋内・屋外）	バリアフリー状況	バリアフリー状況段差への対応状況及び多目的トイレの整備状況から評価分類 ※複合施設の場合、同一施設内に設置されている場合を含む	対応（設置）済み ○スロープ設置等 ○段差への対応 ○多目的トイレ	多目的トイレ及びスロープのない段差の状況 ○多目的トイレ ×段差への対応 または ×多目的トイレ ○段差への対応	多目的トイレやスロープが無く、段差がある ×多目的トイレ ×段差への対応 または、設備があっても機能していない	

【各施設における安全・機能性（健全度）、法令適合性、バリアフリー性評価結果】

施設番号	設置地区	施設名称	施設種別	屋内 屋外	屋内施設の安全性・機能性等			屋外施設の健全度	その他
					安全性	機能性	法令適合	安全対策機能性	バリアフリー
1	上野	上野運動公園競技場	グラウンド	屋外	—	—	—	B	A
2	上野	上野運動公園野球場	グラウンド	屋外	—	—	—	B	B
3	上野	伊賀市民体育館	体育館	屋内	B	B	B	—	C
4	阿山	阿山 B&G 海洋センター体育館	体育館	屋内	B	B	A	—	A
5	大山田	大山田 B&G 海洋センター体育館	体育館	屋内	B	B	A	—	A
6	大山田	大山田東体育館	体育館	屋内	C	C	B	—	A
7	青山	青山児童屋内運動場	体育館	屋内	C	C	C	—	C
8	青山	青山高尾体育館	体育館	屋内	C	C	C	—	C
9	上野	ゆめが丘多目的広場	グラウンド	屋外	—	—	—	B	A
10	上野	しらさぎ運動公園屋内多目的グラウンド	グラウンド	屋内	A	A	A	—	A
11	島ヶ原	島ヶ原運動広場	グラウンド	屋外	—	—	—	B	A
12	伊賀	いがまちスポーツセンターグラウンド	グラウンド	屋外	—	—	—	B	A
13	阿山	阿山第1運動公園グラウンド	グラウンド	屋外	—	—	—	B	B
14	阿山	阿山第2運動公園グラウンド	グラウンド	屋外	—	—	—	B	B

施設 番号	設置 地区	施設名称	施設種別	屋内 屋外	屋内施設の安全性・機能性等			屋外施設の 健全度	その他
					安全性	機能性	法令 適合	安全対策 機能性	バリア フリー
15	大山田	大山田東グラウンド	グラウンド	屋外	—	—	—	B	C
16	青山	青山グラウンド	グラウンド	屋外	—	—	—	B	A
17	青山	青山高尾グラウンド	グラウンド	屋外	—	—	—	B	C
18	青山	青山矢持グラウンド	グラウンド	屋外	—	—	—	B	C
19	上野	上野運動公園 テニスコート	テニスコート	屋外	—	—	—	B	C
20	上野	上野緑ヶ丘テニスコート	テニスコート	屋外	—	—	—	B	C
21	上野	ゆめが丘テニスコート	テニスコート	屋外	—	—	—	B	B
22	伊賀	いがまちスポーツセンタ ーテニスコート	テニスコート	屋外	—	—	—	C	A
23	阿山	阿山第1運動公園テニス コート	テニスコート	屋外	—	—	—	B	A
24	青山	青山テニスコート	テニスコート	屋外	—	—	—	C	C
25	上野	しらさぎ運動公園ゲート ボール場	ゲートボール場	屋外	—	—	—	B	A
26	伊賀	いがまちスポーツセンタ ーゲートボール場	ゲートボール場	屋外	—	—	—	B	A
27	阿山	阿山第1運動公園ゲート ボール場	ゲートボール場	屋内	A	B	A	—	A
28	阿山	阿山 B&G 海洋センター プール	プール	屋内	B	B	B	—	A
29	大山田	大山田 B&G 海洋センタ ープール	プール	屋内	B	B	B	—	A
30	上野	伊賀上野武道館	武道館	屋内	C	B	B	—	B
31	上野	伊賀市民弓道場	弓道場	屋内	C	C	B	—	C
32	阿山	阿山 B&G 海洋センター 艇庫	艇庫	屋内	C	B	B	—	B
33	大山田	大山田 B&G 海洋センタ ー艇庫	艇庫	屋内	C	B	B	—	B

各スポーツ施設の状況について検証したところ、次のような傾向が見られました。

●屋内スポーツ施設の安全性・機能性

躯体安全性で見た場合、施設運営に深刻な影響を与える不健全性は見られませんが、経年劣化による小規模な劣化が進んできています。さらに法定耐用年数が経過し、評価が低くなる傾向にあります。

一方、機能性で見た場合、設置年が古いこともありシャワー室や更衣室など諸室の充足は進んでおらず、快適な利用に課題があると思われます。

●屋外スポーツ施設の健全度

施設運営に深刻な影響を与える大規模な不健全性は見られないものの、経年劣化による小規模な劣化が進んでいます。

●その他（バリアフリー状況）

設置が比較的新しい施設においては対応がなされていますが、規模の小さい施設や設置が古い施設においては評価が低い傾向にあります。

イ 経済性

経済性については、各施設における利用状況（稼働率と1日当たりの利用者数）、維持管理費用（施設のトータルコスト）を基に（注5）偏差値へ変換し、「A・B・C・D」の4段階による評価を行います。

なお、ガイドラインにおいては、「安全性・機能性」評価において「劣」であった施設についてのみ経済性評価の対象とするものですが、本市においては「良」であった施設についても、現況を明らかにするため参考として掲載することとします。

（ア）稼働率と1日当たりの利用者数

評価項目／評価段階		A	B	C	D
利用 状 況 評 価	1. 稼働率 年間運営日数に対する実際の稼働日数（R1年度）の割合により評価分類	1. 稼働率が8割を超える施設	1. 稼働率が5割以上8割以下の施設	1. 稼働率が3割以上5割以下の施設	1. 稼働率が3割未満の施設
		又は	又は	又は	又は
	2. 1日当たりの利用者数 1日当たりの利用者数（R1年度）により評価分類	2. 1日当たりの利用者数が種別ごとの比較で偏差値60以上	2. 1日当たりの利用者数が種別ごとの比較で偏差値40以上60未満	2. 1日当たりの利用者数が種別ごとの比較で偏差値40未満	2. 1日当たりの利用者数が種別ごとの比較で偏差値30未満
	◆1・2で異なる場合は、低い方の評価とする				

（注5） 偏差値とは、同類施設の平均値を偏差値50とし、これよりどの程度離れているのか、その施設における同類施設内での位置を示している。一般的には数値が高くなるにつれ優れ、劣っていれば低い数値となる。（なお、以下の「（イ）コスト状況評価」においては、逆に低コストである方が優位である）

【施設の利用状況評価結果】※2019（令和元）年度利用人数

競 技 場		稼働日数（日）	稼働率（%）	稼働率評価	利用者人数（人）	稼働1日当たり利用者人数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値評価	利用状況等の総合評価
1	上野運動公園競技場	114	31.2	C	16,761	147.0	—	—	C

野 球 場		稼働日数（日）	稼働率（%）	稼働率評価	利用者人数（人）	稼働1日当たり利用者人数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値評価	利用状況等の総合評価
2	上野運動公園野球場	142	38.9	C	8,793	61.9	—	—	C

体 育 館		稼働 日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当 り利用者人数	稼働1日当たりの 利用者数種別ご との偏差値	稼働1日当たりの 利用人数種別ご との偏差値評価	利用状況等 の総合評価
3	伊賀市民体育館	345	94.5	A	23,112	67.0	58.7	B	B
4	阿山 B&G 海洋セン ター体育館	282	77.3	B	20,790	73.7	62.1	A	B
5	大山田 B&G 海洋セン ター体育館	344	94.2	A	14,468	42.1	46.1	B	B
6	大山田東体育館	137	37.5	C	1,679	12.3	31.0	C	C
7	青山児童屋内運動場	12	3.3	D	629	52.4	51.3	B	D
8	青山高尾体育館	14	3.8	D	724	51.7	50.9	B	D

多目的グラウンド		稼働 日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当 り利用者人数	稼働1日当たりの 利用者数種別ご との偏差値	稼働1日当たりの 利用人数種別ご との偏差値評価	利用状況等 の総合評価
9	ゆめが丘多目的広場	77	21.1	D	8,826	114.6	51.3	B	D
10	しらさぎ運動公園 屋内多目的グラウンド	270	74.0	B	19,191	71.1	47.0	B	B
11	島ヶ原運動広場	123	33.7	C	6,551	53.3	45.2	B	C
12	いがまちスポーツセ ンターグラウンド	180	49.3	C	14,269	79.3	47.8	B	C
13	阿山第1運動公園 グラウンド	124	34.0	C	44,004	354.9	74.8	A	C
14	阿山第2運動公園 グラウンド	56	15.3	D	12,419	221.8	61.7	A	D
15	大山田東グラウンド	56	15.3	D	654	11.7	41.2	B	D
16	青山グラウンド	147	40.3	C	9,787	66.6	46.5	B	C
17	青山高尾グラウンド	18	4.9	D	475	26.4	42.6	B	D
18	青山矢持グラウンド	39	10.7	D	741	19.0	41.9	B	D

テニスコート		稼働 日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当 り利用者人数	稼働1日当たりの 利用者数種別ご との偏差値	稼働1日当たりの 利用人数種別ご との偏差値評価	利用状況等 の総合評価
19	上野運動公園 テニスコート	313	85.8	A	8,520	27.2	55.7	B	B
20	上野緑ヶ丘 テニスコート	201	55.1	B	9,730	48.4	69.3	A	B
21	ゆめが丘テニスコート	310	84.9	A	5,212	16.8	49.0	B	B
22	いがまちスポーツセ ンターテニスコート	114	31.2	C	828	7.3	42.9	B	C
23	阿山第1運動公園 テニスコート	184	50.4	B	1,354	7.4	42.9	B	B
24	青山テニスコート	52	14.2	D	169	3.3	40.3	B	D

ゲートボール場		稼働 日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当 り利用者人数	稼働1日当たりの 利用者数種別ご との偏差値	稼働1日当たりの 利用人数種別ご との偏差値評価	利用状況等 の総合評価
25	しらさぎ運動公園 ゲートボール場	1	0.3	D	6	6.0	43.3	B	D
26	いがまちスポーツセン ターゲートボール場	1	0.0	D	20	20.0	42.6	B	D
27	阿山第1運動公園 ゲートボール場	300	82.2	A	51,875	172.9	61.1	A	A

プール		稼働 日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当たり 利用者人数	稼働1日当たりの 利用者数種別ごと の偏差値	稼働1日当たりの 利用者数種別ごと の偏差値評価	利用状況等 の総合評価
28	阿山 B&G 海洋センタープール	43	11.8	D	3,097	72.0	40.0	C	D
29	大山田 B&G 海洋センタープール	37	10.1	D	2,717	73.4	60.0	B	D

武 道 場		稼働 日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当たり 利用者人数	稼働1日当たりの 利用者数種別ごと の偏差値	稼働1日当たりの 利用者数種別ごと の偏差値評価	利用状況等 の総合評価
30	伊賀上野武道館	289	79.2	B	8,267	28.6	—	—	B

弓 道 場		稼働 日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当たり 利用者人数	稼働1日当たりの 利用者数種別ごと の偏差値	稼働1日当たりの 利用者数種別ごと の偏差値評価	利用状況等 の総合評価
31	伊賀市民弓道場	343	94.0	A	2,288	6.7	—	—	A

艇 庫		稼働 日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当たり 利用者人数	稼働1日当たりの 利用者数種別ごと の偏差値	稼働1日当たりの 利用者数種別ごと の偏差値評価	利用状況等 の総合評価
32	阿山 B&G 海洋センター艇庫	3	0.8	D	71	23.7	60.0	B	D
33	大山田 B&G 海洋センター艇庫	0	0.0	D	0	0.0	40.0	C	D

利用状況を検証したところ、概ね次のような傾向が見られました。

●稼働率

競技場や野球場、多目的グラウンド等の屋外施設で、市民アンケート調査結果によるとサッカー等が実施種目としての回答が多いため、稼働率が高くなると思われましたが、逆に他の施設グループに比較して低い傾向にあります。この要因として降雨や気温等の天候による影響に加え、市民アンケート結果による実施場所が小・中学校の施設利用が多いこと、さらに多目的グラウンドが多く配置され利用が分散していることが考えられます。

体育館では、市民アンケート調査結果によるとバレーボールや卓球などの実施種目が多くなっていますが、実施場所が小・中学校の施設利用が多いことにより現状の体育館の利用にあまり結びついていないように考えられます。

またテニスコートでは、特定の施設に利用が集中しています。

プールや艇庫では、開設や利用期間が夏季のみに限定されることから稼働率が低くなっています。

ゲートボール場では、「しらさぎ運動公園ゲートボール場」及び「いがまちスポーツセンターゲートボール場」の利用がほぼ無い一方、天候等に左右されない「阿山第1運動公園ゲートボール場」や、「しらさぎ運動公園屋内多目的グラウンド」の屋内型施設に利用が集中しています。このことから、施設利用には施設までの移動距離が多少遠くなっても天候に左右されず、さらに照明機器が設置されているなど快適な利用環境へのニーズが伺えます。

●稼働1日あたりの利用者数

年間の稼働率が低くても、稼働した日の1日あたりの利用者数で見た場合、特定の日に利用者数が極端に多くなることが分かります。これはイベントや大会の開催によるものと考えられ、この傾向は規模が比較的大きな施設においてみられます。

(イ) 維持管理費用

評価項目／評価段階		A	B	C	D
維持管理費用評価	施設のトータルコスト 令和元年度の利用者1人当たりのトータルコストを分類評価 ※トータルコストは、その施設固有の光熱水費や修繕費、草刈りや整地費用等の物件費に加え、人件費とする。 なお、人件費は、①施設設置状況（単独や複数種目施設を網羅する総合施設かどうか）、②施設専用の管理事務所の有無、③指定管理者における自主事業の有無によっても左右される。 この為、単純に指定管理料をもとに施設規模や配置人員を参考に按分。	利用者1人当たりのコストが種別ごとの比較で偏差値45未満	利用者1人当たりのコストが種別ごとの比較で偏差値45～55	利用者1人当たりのコストが種別ごとの比較で偏差値55～60	利用者1人当たりのコストが種別ごとの比較で偏差値60以上

【施設のコスト状況評価結果】 ※2019（令和元）年度維持管理経費・利用人数

競技場		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費(円)	偏差値	評価
1	上野運動公園競技場	10,276	16,761	613	—	—

野球場		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費(円)	偏差値	評価
2	上野運動公園野球場	6,946	8,793	790	—	—

体育館		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費(円)	偏差値	評価
3	伊賀市民体育館	7,240	23,112	313	42.2	A
4	阿山 B&G 海洋センター体育館	4,221	20,790	292	40.9	A
5	大山田 B&G 海洋センター体育館	5,699	14,468	394	47.2	B
6	大山田東体育館	1,317	1,679	784	71.0	D
7	青山児童屋内運動場	229	629	364	47.8	B
8	青山高尾体育館	237	724	327	50.9	B

多目的グラウンド		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費 (円)	偏差値	評価
9	ゆめが丘多目的広場	3,160	8,826	358	49.5	B
10	しらさぎ運動公園屋内多目的 グラウンド	8,149	19,191	425	53.2	B
11	島ヶ原運動広場	2,508	6,551	383	50.9	B
12	いがまちスポーツセンター グラウンド	5,743	14,269	402	52.0	B
13	阿山第1運動公園グラウンド	3,244	44,004	74	33.3	A
14	阿山第2運動公園グラウンド	4,087	12,419	329	47.8	B
15	大山田東グラウンド	378	654	577	61.9	D
16	青山グラウンド	6,971	9,787	712	69.5	D
17	青山高尾グラウンド	120	475	253	43.5	A
18	青山矢持グウラウンド	120	741	162	38.3	A

テニスコート		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費 (円)	偏差値	評価
19	上野運動公園テニスコート	2,507	8,520	294	44.3	A
20	上野緑ヶ丘テニスコート	1,308	9,730	134	44.0	A
21	ゆめが丘テニスコート	2,084	5,212	400	44.5	A
22	いがまちスポーツセンター テニスコート	2,717	828	3,281	50.0	B
23	阿山第1運動公園テニスコート	1,156	1,354	854	45.4	B
24	青山テニスコート	2,476	169	14,650	71.9	D

ゲートボール場		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費 (円)	偏差値	評価
25	しらさぎ運動公園ゲートボール場	2,537	6	422,765	62.1	D
26	いがまちスポーツセンター ゲートボール場	1,532	20	76,583	45.7	B
27	阿山第1運動公園 ゲートボール場	1,623	51,875	31	42.1	A

プール		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費 (円)	偏差値	評価
28	阿山B & G 海洋センタープール	4,999	3,097	1,614	49.9	B
29	大山田B & G 海洋センター プール	7,113	2,717	2,618	50.1	B

武 道 館		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費 (円)	偏差値	評価
30	伊賀上野武道館	3,939	8,267	476	—	—

弓 道 場		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費 (円)	偏差値	評価
31	伊賀市民弓道場	2,589	2,288	1,132	—	—

艇 庫		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費 (円)	偏差値	評価
32	阿山B & G 海洋センター艇庫	—	71	—	—	—
33	大山田B & G 海洋センター艇庫	—	0	—	—	—

各スポーツ施設の維持管理費用を検証したところ、次のような傾向が見られました。

●維持管理経費

競技場や野球場、テニスコートやプール等においてはグラウンド整地や芝生管理、ろ過機の保守に高い専門性を要する施設であることから、維持管理経費が高くなる傾向にあります。また、同じ種類の施設内でも、施設規模や芝生の有無等によっても大きな開きがあります。

●利用人数と1人当たりの経費

極端に利用が少ない施設は、1人当たりの経費が高くなることはもちろんですが、逆に利用人数が多い場合でも、それによるグラウンドや芝生の劣化が進み頻繁な整備を行う必要があること、夜間利用による光熱費の発生等による経費が多くなる傾向があります。

ウ 耐震性

屋内スポーツ施設を耐震設計基準（1981年 昭和56年）により評価します。

- | | |
|--|---|
| <p>（ア）耐震基準での設計の状況（新基準または旧基準であるか）
（イ）旧基準である場合は耐震診断実施の有無</p> | } |
|--|---|

(2) ガイドラインによる評価結果の取りまとめ

各施設について、「ア 安全性・機能性」、「イ 経済性」、「ウ 耐震性」の3つの側面から得られた個別評価を基として下記基準により総合評価を行います。

●安全性・機能性（健全度）における評価基準（屋外・屋内施設共通）

評 価 基 準	総合評価
・全体的に劣化や不具合等の事象が確認されない。 ・部分的な劣化や不具合等の事象が確認されるが、緊急性が低い（日常的な保守管理及び経過観察により対応）。 ・法定点検での是正報告がない、又は是正事項が既に改善されている（改善予定も含む。）。 ・スポーツ施設の安全対策がなされている。	⇒良
・全体的な劣化や不具合等、又は著しい劣化や不具合等の事象が確認され、全面的な補修若しくは改修が必要である。 ・劣化、不具合等の事象により、重大な事故が想定され、施設の利用制限をし、又は緊急に補修若しくは改修が必要である。 ・法定点検での是正報告があり、是正が長期間放置されている、又は重大な事故、施設の利用制限が想定される。 ・重大な事故の恐れがある安全に関する対策が実施されていない。	⇒劣

●経済性における評価基準（安全性・機能性が「劣」の場合必須。その他は参考）

評 価 基 準	総合評価
・稼働率や稼働1日あたりの利用者数が標準よりも多い。 ・維持管理費用が標準より少ない ・稼働率や利用率は低いものの、維持管理費用が低く抑えられている。 ・稼働率や利用率は低いものの、他に同種類の施設がなく運用面の見直しの可能性がある。	⇒良
・稼働率や稼働1日あたりの利用者数が標準より著しく状況が悪い。 ・維持管理費用が標準より著しく状況が悪い。	⇒劣

●耐震性における評価基準（屋内施設のみ）

評 価 基 準	総合評価
・新基準において設計されている ・旧基準で設計されたが、耐震（大規模）改修が実施されている	⇒問題なし
・旧基準で設計され、耐震改修がなされていない。	⇒問題あり

ガイドライン評価による施設方向性及び整備手法

総合評価により導き出された結果による、今後の施設整備の方向性と整備手法の考え方は次のとおりです。

方向性	整備手法	内 容
維 持	現状維持	施設の機能を維持しながら、長期的に使用し続ける。
	長寿命化	計画的に改修等の保全を行い、現在の施設をより長く使用する。
改 善	耐震改修	地震に対する安全性向上を目的に改修する。
	機能改修	経年劣化への対応を目的に改修する。
改 廃	再整備	施設を廃止し、別の敷地に新たに機能集約を含め施設を整備する。または、現地で多用途へ変更を行う。
	廃止	施設を解体、または地域等への譲渡を行う。

ガイドラインによる評価結果一覧

施設種別	施設番号	設置地区	施設名	安全性・機能性				他	評価	経済性			施設の方向性(A)	耐震性					整備手法(B)
				安全性	機能性	法令適合性	屋外スポーツ施設の健全性			利用状況	維持管理経費	評価		設置年	耐震基準	診断の有無	その他	評価	
競技場	1	上野	上野運動公園競技場	—	—	—	B	A	良	C	—	良	維持	(1975) 1998 大規模改修				対象外	現状維持
野球場	2	上野	上野運動公園野球場	—	—	—	B	B	良	C	—	良	維持	(1963) 1997 大規模改修				対象外	現状維持
体育館	3	上野	伊賀市民体育館	B	B	B	—	C	良	B	A	良	維持	(2000) 2017	新			問題なし	長寿命化
	4	阿山	阿山 B&G 海洋センター体育館	B	B	A	—	A	良	B	A	良	維持	1989	新			問題なし	長寿命化
	5	大山田	大山田 B&G 海洋センター体育館	B	B	A	—	A	良	B	B	良	維持	1988	新			問題なし	長寿命化
	6	大山田	大山田東体育館	C	C	B	—	A	劣	C	D	劣	改廃	1994	新			問題なし	廃止
	7	青山	青山児童屋内運動場	C	C	C	—	C	劣	D	B	劣	改廃	1982	新			問題なし	廃止
	8	青山	青山高尾体育館	C	C	C	—	C	劣	D	B	劣	改廃	1988	新			問題なし	廃止
多目的グラウンド	9	上野	ゆめが丘多目的広場	—	—	—	B	A	良	D	B	劣	維持	2000				対象外	現状維持
	10	上野	しらさぎ運動公園屋内多目的グラウンド	A	A	A	—	A	良	B	B	良	維持	2014	新			問題なし	長寿命化
	11	島ヶ原	島ヶ原運動広場	—	—	—	B	A	良	C	B	良	維持	2007				対象外	現状維持
	12	伊賀	いがまちスポーツセンターグラウンド	—	—	—	B	A	良	C	B	良	維持	1992				対象外	現状維持
	13	阿山	阿山第1運動公園グラウンド	—	—	—	B	B	良	C	A	良	維持	1983				対象外	現状維持
	14	阿山	阿山第2運動公園グラウンド	—	—	—	B	B	良	D	B	劣	維持	1988				対象外	現状維持
	15	大山田	大山田東グラウンド	—	—	—	B	C	良	D	D	劣	維持	学校開設時				対象外	現状維持
	16	青山	青山グラウンド	—	—	—	B	A	良	C	D	劣	維持	1997				対象外	現状維持
	17	青山	青山高尾グラウンド	—	—	—	B	C	良	D	A	劣	維持	学校開設時				対象外	現状維持
	18	青山	青山矢持グラウンド	—	—	—	B	C	良	D	A	劣	維持	学校開設時				対象外	現状維持

施設種別	施設番号	設置地区	施設名	安全性・機能性				他	評価	経済性			施設の方向性(A)	耐震性					整備手法(B)
				安全性	機能性	法令適合性	屋外スポーツ施設の健全度			利用状況	維持管理経費	評価		設置年	耐震基準	診断の有無	その他	評価	
テニスコート	19	上野	上野運動公園 テニスコート	—	—	—	B	C	良	B	A	良	維持	1980				対象外	現状維持
	20	上野	上野緑ヶ丘 テニスコート	—	—	—	B	C	良	B	A	良	維持	1956				対象外	現状維持
	21	上野	ゆめが丘テニスコート	—	—	—	B	B	良	B	A	良	維持	1997				対象外	現状維持
	22	伊賀	いがまちスポーツセンターテニスコート	—	—	—	C	A	劣	C	B	良	改善	1992				対象外	機能改修
	23	阿山	阿山第1運動公園 テニスコート	—	—	—	B	A	良	B	B	良	維持	1983				対象外	現状維持
	24	青山	青山テニスコート	—	—	—	C	C	劣	D	D	劣	改廃	1980代				対象外	廃止
ゲートボール場	25	上野	しらさぎ運動公園 ゲートボール場	—	—	—	B	A	良	D	D	劣	維持	2014				対象外	現状維持
	26	伊賀	いがまちスポーツセンターゲートボール場	—	—	—	B	A	良	D	B	劣	維持	1992				対象外	現状維持
	27	阿山	阿山第1運動公園 ゲートボール場	A	B	A	—	A	良	A	A	良	維持	1996	新			問題なし	長寿命化
プール	28	阿山	阿山B&G 海洋センタープール	B	B	B	—	A	良	D	B	劣	維持	1989	新			問題なし	長寿命化
	29	大山田	大山田B&G 海洋センタープール	B	B	B	—	A	良	D	B	劣	維持	1988	新			問題なし	長寿命化
武道場	30	上野	伊賀上野武道館	C	B	B	—	B	良	B	—	良	維持	1983	新			問題なし	長寿命化
弓道	31	上野	伊賀市民弓道場	C	C	B	—	C	劣	A	—	良	改善	(1973) 2017 大規模改修	旧			問題あり	耐震改修
艇庫	32	阿山	阿山B&G 海洋センター艇庫	C	B	B	—	B	良	D	—	劣	維持	1989	新			問題なし	長寿命化
	33	大山田	大山田B&G 海洋センター艇庫	C	B	B	—	B	良	D	—	劣	維持	1988	新			問題なし	長寿命化

5 スポーツ施設再編・整備にあたっての課題

「4 スポーツ施設の評価」では、国のガイドラインに基づいて各施設の評価を行い、得られた結果を基に、今後の施設整備に関する『方向性』と『整備手法』について取りまとめを行いました。

一方、伊賀市における固有の課題や考慮すべき点は以下のとおりであり、施設個別の整備計画について配慮を行うこととします。

（１）大会が開催できる施設の不足

市民が普段スポーツを楽しむ場としての施設は、学校体育施設を含め各地域に分散立地されています。

しかし、市・県民大会など比較的規模の大きな大会の開催では、1会場あたりの施設の大きさやコート数が不足していること、駐車場や観客席が少なくやむを得ず分散して大会を開催している状況です。

さらに、伊賀市を活動拠点とするスポーツチームの練習・活動等に対し、試合会場や練習会場となる施設の環境整備が求められています。

（２）老朽化した施設の存在

設置後 30 年を経過し、施設劣化がみられる施設が多くあり、継続して安全で快適な競技環境を提供するために計画的な改修を行うことはもちろんですが、利用状況や利便性を注視し、場合によっては廃止による解体を行うなど、都市計画上の環境にも配慮することが必要です。

（３）施設の質・機能の向上

今後、施設の改修等を実施していくにあたって、駐車場をはじめ、会議室、更衣（シャワー）室、冷暖房設備などの快適設備の充実を図る必要があります。

また、障がい者スポーツに対応できる施設内の段差改修や多目的トイレの整備など、ユニバーサルデザインに沿って、すべての人が一緒になってスポーツを楽しむことができる環境づくりが必要です。

さらに、2021 年をもって照明器具の水銀灯の製造や輸入等が中止（水俣条約）され、今後交換球の入手が困難になるばかりか、器具本体の修繕ができないこととなります。

このため、照明器具を現在主流になっている省電力の LED タイプに計画的に更新を行っていく必要があります。

（４）複数の類似施設・零細施設への対応

2004（平成 16）年の市町村合併により、当時の施設をそのまま引き継ぎ配置していることから、類似施設が複数存在している状況です。

また、零細な施設が点在していることから、施設状態、利用状況及び市民ニーズなどを考慮し、集約による再配置や種目用途の変更などに努める必要があります。

(5) 他目的利用の現状

体育施設の中には災害時の避難所となっている施設があり、再編にあたっては考慮する必要もあります。

【拠点避難所】

大山田東体育館、青山児童屋内運動場、青山高尾体育館

【指定避難所】

伊賀上野武道館、阿山B & G海洋センター、大山田B & G海洋センター

【ヘリポート】 上野運動公園野球場、上野運動公園競技場、ゆめが丘多目的広場、
いがまちスポーツセンターグラウンド、大山田東グラウンド、
阿山第一運動公園、大山田B & G海洋センター駐車場、
青山グラウンド、青山高尾グラウンド、青山矢持グラウンド

(6) 利用者ニーズに対するサービスや実施環境の充実

個々の施設が十分に利用されていない要因の一つとして、利用者が「いつでも」、「どこでも」施設の空き状況を確認し、すぐ予約できる環境が整っていないことが挙げられます。

このため、インターネットを活用するなど利用者目線に立って利用環境の整備をする必要があります。

また、最近では、従前の競技スポーツばかりでなく居宅の近くでのジョギングに代表される気軽なスポーツニーズのほか、ボッチャやキンボール等のレクリエーション種目の普及が進んできています。

さらに新たにオリンピックの正式種目に採用されたスケートボードや^(注6)BMXなど若年層を中心としたスポーツにも関心が高まってきています。

このことから、その実施環境の整備と併せ、かつ個々の競技能力や知識の向上、生涯にわたりスポーツを楽しむためのスポーツ教室などソフト面での充実も必要です。

(7) 厳しい財政状況

伊賀市においても少子高齢化の影響などによる税収入の減少に加え、合併特例債や地方交付税の優遇期間の終了等により、厳しい財政状況となっています。

市財政の弾力性を示す指標である^(注7)経常収支比率は、令和元年度決算で97.8%となり、財政の硬直化が進んでいることに加え、自主財源の比率を示す財政力指数も0.63と財政基盤が弱く、極めて厳しい状況にあります。

このため、現在あるスポーツ施設を現状のまま維持管理した場合、施設の老朽化進行による修繕工事等の維持管理コストの増大が避けられないことから、類似施設の統廃合や多用途への変更や再編をする必要があります。

(注6) BMXとはBicycle Motocross（バイシクルモトクロス）の略。自転車競技の一種でレースとフリースタイル（ジャンプや走破性などの技を競う）で構成。

(注7) 経常収支比率とは、人件費や扶助費、公債費などの固定経費が一般財源に占める支出割合をいう。

（８）現在までの公共施設最適化計画による効果

公共施設最適化計画第Ⅰ期（2015（平成27）年度～2019（令和元）年度）の間で廃止されたスポーツ施設の維持管理費用（令和元年度末まで累計）

施設名	廃止年度	維持管理経費（千円）
上野運動公園体育館	2016（平成28）年度	1,738
青山上津体育館	2017（平成29）年度	800
青山上津グラウンド	2017（平成29）年度	800
青山博要体育館	2017（平成29）年度	992
青山博要グラウンド	2017（平成29）年度	992
青山北部運動施設	2018（平成30）年度	1,898
上野運動公園プール	2019（令和元）年度	6,348
合 計		13,568

2015（平成27）年度から2019（令和元）年度の公共施設最適化計画でのスポーツ施設の維持管理経費の削減額は、約1,300万円です。

一般的に、早期に削減等を行うほど削減効果が大きくなります。

第3章 施設再編・整備の基本方針

1 施設再編・整備の基本的な考え方

本市のスポーツ施設は、市町村合併により類似で小規模な施設、観覧席が無くまたバリアフリーでない施設を多く有することになり、市民を対象とした大会や、より高い技術を間近で見られる大会の開催ができない状況にあります。

また、老朽化した施設が多く、維持管理経費が増大することで、必要な修繕に支障を来し、やむを得ず利用制限をせざるを得ない状況も発生しています。これにより施設稼働率がさらに低下し、その結果効率的な運営ができない悪循環に陥るなど、現状の施設は多くの課題を有しています。さらに、少子高齢化などの社会情勢や市民の多岐にわたるスポーツニーズに対応するため、競技スポーツのみならず生涯スポーツやレクリエーションスポーツも楽しめる施設を整備する必要もあります。

このような中、市民が安心・安全にスポーツを気軽に楽しめる環境づくりや、快適にスポーツを観戦できる環境づくり、更にはスポーツによる交流人口の拡大に向けた施設整備を進めていきます。

また市民アンケートで「適正配置を検討する場合に重視すべき視点」を聞いたところ、

- ① 利用時の交通手段は自動車での利用が多く、十分な駐車場が確保されていること
- ② 多種目や同一種目機能を集中配置し、総合的な管理機能を生かした維持コストの削減への意見が多くなっています。

以上の事から、施設整備を進めるにあたっては、「老朽化状況」「利用状況」「機能別・地域別施設数」「他目的利用の現状」「伊賀市の今後のスポーツ振興の方向性」等のさまざまな視点と、アンケート調査の結果や利用者ニーズ、更には「伊賀市公共施設最適化計画」も踏まえつつ、めざすべき施設整備の方向性を定めて進めていきます。

なお現在、阿山第1運動公園（グラウンド、テニスコート、ゲートボール場）、阿山第2運動公園（グラウンド）、阿山B&G海洋センター（体育館、プール、艇庫）については、周辺の公共施設と一体的に活用する「（仮称）伊賀あやまスポレク文化キャンプ」として、スポーツによる交流人口の拡大をめざし、その整備・運用方法としての公民連携事業の可能性調査にも取り組んでいます。このため本計画に示す方向性や整備手法に影響があることから、整合性を図りながら進めることとします。

2 基本方針

施設の現状による評価を行うとともに、伊賀市で直面する課題等について今後の施設整備に関する考え方を示してきましたが、これに基づく基本方針を次のとおり定めます。

（１）市民が利用しやすい施設・設備の整備

- ①日常的なスポーツ利用に支障のないような機能維持に努めます。
- ②誰もが快適かつ気軽にスポーツができる環境づくりや、障がい者スポーツの推進に向け、ユニバーサルデザインの導入など付帯機能の充実に努めます。
- ③インターネットの活用などで、施設の空き状況の確認や施設予約等の利用手続きの簡素化を図ることで、利用者の利便性向上を図ります。

（２）老朽化施設の見直し・修繕

- ①老朽化が著しい施設の内、改修しても施設の安全性が確保できない施設や、極めて利用の少ない施設、利用が地域に限定されている施設、市内に類似施設がある施設については、統廃合や転用などについて計画的に実施します。また状況によっては解体も視野に入れることとします。
- ②その他の施設は、利用者からの意見を聞きながら年度ごとに適正な修繕予算を確保しながら安心・安全かつ快適な施設環境を提供できるよう維持管理に努めます。

（３）大会を想定した施設の整備

市・県民大会など比較的規模の大きな大会が開催できるよう、駐車場や観覧席などの設備の設置を検討するほか、類似施設の統廃合により機能の集中化や充実に努めます。

さらに、このような大会に市民が「参加」・「見る」ことにより臨場感あふれる感動を直近で味わえるよう、施設の充実に努めます。

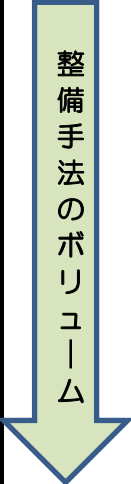
（４）新たな施設の整備

施設の規模や機能において、利用者ニーズに対応できず、今後の安定的な共用ができないと思われるものについては、新たな施設の整備に向け取り組みます。

3 個別施設の方向性・整備手法

国のガイドラインに基づく評価結果を踏まえつつ、伊賀市における課題や方針、さらにはニーズ調査結果等も加味し、今後の伊賀市におけるスポーツ施設の方向性や整備手法について次のとおり定めるものとします。

個別施設の方向性及び整備手法

方向性	整備手法	【参考】 伊賀市公共施設最適化計画において概ね合致する方向性	内 容
維持 	現状維持	継 続	屋外施設において、施設機能を維持しながら、長期的に使用を続ける。 「（例）利用上の安全性や機能性を保つため必要に応じて改修等を行う。」
	長寿命化	継 続	屋内施設において、計画的に改修等の保全を行い、現在の施設をより長く使用する。 「（例）安全性や機能性について予防措置を講じることにより施設の延命を図ること、または措置により機能性等が向上し、施設利用の快適性が保て結果として施設機能が長期間に保てるための改修を行う。」
	新設・建替	継 続	同等の機能を有する施設を整備する。または、新たなニーズに応じた施設を新規に整備する。
改善	耐震改修	継 続	地震に対する安全性向上を目的に改修する。 「（例）耐震基準を満たしていない施設の、耐震改修を行う。」
	他機能・機能集約化	複合化・縮小・継続	現在の種目機能の変更や機能集約（複合化）を行う。また、経年劣化や社会的環境に対応した改修を行う。 「（例）現在の種目機能を他種目等に変更、または同じ種目機能を1箇所に集約する改修を行う。 （例）施設構造体の劣化や、附属施設（トイレや更衣室等）の陳腐化、ならびに利用者ニーズ変化への対応等、社会的環境の変化に対応するための改修を行う。」
改 廃	譲 渡	縮小・廃止	施設機能を残し譲渡を行う。 「（例）自治会やその他の団体への移譲、管理主体の変更を行う。」
	廃 止	廃 止	施設を解体、又は売却等。

1 上野運動公園競技場

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋 外 施 設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	C	良				
	維持管理費用	—					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

市内唯一の競技場であり、2021（令和3）年開催の「三重とこわか国体」の女子サッカー会場にもなっています。フィールドは天然芝でサッカー、グラウンド・ゴルフにも利用されており、芝生の養生期間による一定の利用制限が必要なこともあり、稼働率は低いものの今後も日常的管理を行い必要な修繕を実施します。

また、女子サッカークラブである「伊賀FCくノ一三重」がホームグラウンドとして利用している競技場のプロ基準（J3）化施設改修は、運営に携わる方が主体となって、実現に向けて様々な検討を進める必要があります。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① シャワー室等諸室整備工事	*検討 陸上トラック路盤改修工事
② スコアボード塗装工事	*検討 スポーツセンター管理棟改築工事

2 上野運動公園野球場

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋 外 施 設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	B					
経済性	利用状況	C	良				
	維持管理費用	—					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

市内唯一の野球専用球場で、2021（令和3）年開催の「三重とこわか国体」の軟式野球

会場とされ、稼働率は低いものの両翼が約 100m 取れ、加えて照明設備が配備されていること等、全国レベルの大会を開催することができる施設です。このため日常的管理を行い必要な修繕を実施します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① ダグアウト硬式化工事	② 照明機器 LED 化改修工事 ③ 三塁側防球ネット設置工事

3 伊賀市民体育館

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	B	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	機能性	B					
	法令適合性	B					
屋 外 施 設	安全対策	—					
	機能性	—					
その他	バリアフリー	C	良				
経済性	利用状況	B					
	維持管理費用	A					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

耐震性を満たし市中心部にも立地しています。

利用者数及びコスト面での評価が高く、競技可能コートも、バレーボールコート（2面）、バドミントンコート（4面）、バスケットボールコート（2面）を取ることが可能で他の種目への汎用性も高くなっています。屋内スポーツ活動の拠点施設であることから諸室の整備やバリアフリー化を図り日常管理を実施します。

なお、旧学校体育館を転用した施設で観覧席が無いいため、観覧方法や空調設備の整備について検討を行います。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 照明機器 LED 化改修工事	② 諸室・トイレバリアフリー化改修工事

4 阿山B&G海洋センター体育館

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	B	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	機能性	B					
	法令適合性	A					
屋 外 施 設	安全対策	—					
	機能性						
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	B	良				
	維持管理費用	A					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

隣接する第1・2運動公園グラウンド、及びプール、テニスコートと一体となる総合スポーツセンターで、B&G財団から青少年健全育成の観点から整備後に移管された施設です。

耐震性を満たすとともに、稼働率、コスト面での評価が高くなっています。競技可能コートも、バレーボールコート（2面）、バドミントンコート（3面）、を取ることが可能で他種目への汎用性も高く、屋内スポーツ活動の拠点施設であることから日常管理を実施し、長寿命化を図ります。

一方、近隣には道の駅をはじめ農業観光施設、文化センターも立地し、名阪国道や新名神高速道路からのアクセスも容易で、現在一帯を民間資本主体による整備・運用について計画
中である「伊賀あやまスポレク文化キャンプ」の整備方針との整合性も図りながら（注7）スポーツツーリズム等での利用についても検討します（「13 阿山第1運動公園グラウンド、14 阿山第2運動公園グラウンド、23 阿山第1運動公園テニスコート、27 阿山第1運動公園ゲートボール場」、28「阿山B&G海洋センタープール」、32「阿山B&G海洋センター艇庫」に同じ）。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
	① トレーニング備品更新配備 ② 照明機器LED化改修工事

（注7）スポーツツーリズムとは、プロスポーツの観戦者やスポーツイベントの参加者と開催地周辺の観光とを融合させ、交流人口の拡大や地域経済への波及効果などをめざす取り組み。観光庁が「観光立国戦略」の一環として着目し、2012年4月には産学官の連携組織の日本スポーツツーリズム推進機構が設立された。

5 大山田B&G海洋センター体育館

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性					
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法				
屋 内 施 設	安全性	B	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化				
	機能性	B									
	法令適合性	A									
屋 外 施 設	安全対策	—									
	機能性										
その他	バリアフリー	A									
経済性	利用状況	B	良								
	維持管理費用	B									
耐震性	耐震基準	新	問題なし								

耐震性を満たすとともに、稼働率、コスト面での評価が高くなっています。競技可能コートも、バレーボールコート（2面）、バドミントンコート（3面）、を取ることが可能で他種目への汎用性も高くなっています。

また、B&G 財団で青少年健全育成の観点から整備後に移管された施設であり、ソフト面での各種スポーツ教室の充実も図りながら日常管理を実施し長寿命化を図ります。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 照明機器 LED 化改修工事	② トレーニング備品更新配備

6 大山田東体育館（旧大山田東小学校体育館）

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性					
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法				
屋 内 施 設	安全性	C	劣	改廃	廃止	改廃	譲渡				
	機能性	C									
	法令適合性	B									
屋 外 施 設	安全対策	—									
	機能性										
その他	バリアフリー	A									
経済性	利用状況	C	劣								
	維持管理費用	D									
耐震性	耐震基準	新	問題なし								

耐震性を満たしているものの、稼働率や利用者数での評価が低くなっています。

通常利用は地域住民が多く、柔軟な利用を図るうえでも地域へ譲渡を行います。

7 青山児童屋内運動場（旧矢持小学校体育館）

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性					
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法				
屋 内 設 施 設	安全性	C	劣	改廃	廃止	改廃	譲渡 (廃止)				
	機能性	C									
	法令適合性	C									
屋 外 設 施 設	安全対策 機能性	—									
その他	バリアフリー	C									
経済性	利用状況	D	劣								
	維持管理費用	B									
耐震性	耐震基準	新	問題なし								

耐震性を満たしているものの利用者数、コスト面での評価が低くなっています。

通常の利用は地域住民が多く、柔軟な利用を図るうえでも地域へ譲渡を行います。

なお、老朽化が激しいため地域住民との協議により利用に耐えられない際には、解体も視野に検討を行います。

8 青山高尾体育館（旧高尾小学校体育館）

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性					
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法				
屋 内 設 施 設	安全性	C	劣	改廃	廃止	改廃	譲渡 (廃止)				
	機能性	C									
	法令適合性	C									
屋 外 設 施 設	安全対策 機能性	—									
その他	バリアフリー	C									
経済性	利用状況	D	劣								
	維持管理費用	B									
耐震性	耐震基準	新	問題なし								

耐震性を満たしているものの、稼働率や利用者数での評価が低くなっています。

通常の利用は地域住民が多く、柔軟な利用を図るうえでも地域へ譲渡を行います。

9 ゆめが丘多目的広場

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性					
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法				
屋 内 施 設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持 (改善)	現状維持 (他機能・ 機能集約 化)				
	機能性	—									
	法令適合性	—									
屋 外 施 設	安全対策 機能性	B									
その他	バリアフリー	A									
経済性	利用状況	D									
	維持管理費用	B									
耐震性	耐震基準	—	対象外								

成人用サッカーコートが確保できる施設で、付随施設であるトイレや駐車場もバリアフリー対応がなされています。稼働率が低いもののコスト面では構造物がないため評価は低くはありません。

一方、上野運動公園競技場が芝生養生の都合上、利用制限がある中、その代替施設として交互にサッカーを中心とした競技が行えるよう人工芝化も検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
* 検討 暗渠排水改修・人工芝化工事	* 検討 照明設備設置工事

10 しらさぎ運動公園屋内多目的グラウンド

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性					
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法				
屋 内 施 設	安全性	A	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化				
	機能性	A									
	法令適合性	A									
屋 外 施 設	安全対策 機能性	—									
その他	バリアフリー	A									
経済性	利用状況	B	良								
	維持管理費用	B									
耐震性	耐震基準	新	問題なし								

全天候型屋内施設で各評価項目も高く、必要な修繕を実施し日常管理を行い、長寿命化を図ります。

11 島ヶ原運動広場

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋 外 施 設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	C	良				
	維持管理費用	B					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

利用は休日における少年野球チームの練習にほぼ特化されることから、利用者数やコスト状況は若干劣りますが、グラウンドのみの施設であり維持管理を行い継続します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
	① グラウンド不陸整正・外構排水工事

12 いがまちスポーツセンターグラウンド

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋 外 施 設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	C	良				
	維持管理費用	B					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

いがまち地域の総合型スポーツクラブの活動拠点施設にもなっており、稼働率が低いものの各項目の評価は平準化しています。

旧伊賀町で設置された総合運動公園の一部で、周囲に人家もなく名阪国道からのアクセスは非常に良く駐車台数も多く取ることができます。

現在、高校ソフトボール部の練習需要が増加していることから、必要な備品等を整備し、これを活用した一般利用者の増加も図ります。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（２０２１年～２０２５年）	後期（２０２６年～２０３０年）
① ソフトボール防球ネット配備	② 照明機器 LED 化改修工事 ＊検討 暗渠排水改修・不陸整正工事

13 阿山第１運動公園グラウンド

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋 外 施 設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	B					
経済性	利用状況	C	良				
	維持管理費用	A					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

利用者数、コスト面での評価が高くなっています。隣接する第２運動公園グラウンド及びB&G 海洋センターと一体となる総合スポーツセンターです。

野球やサッカーなど多目的に利用でき、また名阪国道からのアクセスも容易で阿山地域におけるスポーツ拠点であることから維持管理を継続します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（２０２１年～２０２５年）	後期（２０２６年～２０３０年）
	① 照明機器 LED 化改修工事 ② 屋外トイレ設備改修工事

14 阿山第2運動公園グラウンド

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋 外 施 設	安全対策	B					
	機能性	B					
その他	バリアフリー	B					
経済性	利用状況	D	劣				
	維持管理費用	B					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

隣接する第1運動公園グラウンド及びB&G海洋センターと一体となる総合スポーツセンターでコスト面での評価が高くなっています。

また、天然芝による成人用サッカーコートが整備されており、上野運動公園競技場が芝生養生の関係上利用制限がある中、ゆめが丘多目的広場と併せ、交互にサッカーを中心としたフィールド競技を行うことができる代替施設として継続して維持管理を行います。

なお、人工芝化・照明設備の設置も視野に継続します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 法面等獣害対策保護工事	＊検討 照明設備設置工事 ＊検討 暗渠改修及び人工芝化工事

15 大山田東グラウンド（旧大山田東小学校グラウンド）

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	—	良	維持	現状維持	改廃	譲渡
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋 外 施 設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	C					
経済性	利用状況	D	劣				
	維持管理費用	D					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

稼働率や利用者数での評価が低くなっています。

通常利用は地域住民が多く、フレキシブルな利用を図る上でも地域へ譲渡を行います。

16 青山グラウンド

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性					
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法				
屋 内 施 設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持 (改善)	現状維持 (他機能・ 機能集約 化)				
	機能性	—									
	法令適合性	—									
屋 外 施 設	安全対策 機能性	B									
その他	バリアフリー	A									
経済性	利用状況	C	劣								
	維持管理費用	D									
耐震性	耐震基準	—	対象外								

地域中心地からは遠く稼働率、利用状況は低い傾向にあります。しかしながら、青山地域のスポーツの拠点施設であることから、グラウンド機能は当面継続しつつも、多機能化を検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
* 検討 他機能化に向けた検討	① 照明機器 LED 化改修工事 * 検討 他機能（他用途）化工事

17 青山高尾グラウンド（旧高尾小学校グラウンド）

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性					
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法				
屋 内 施 設	安全性	—	良	維持	現状維持	改廃	譲渡				
	機能性	—									
	法令適合性	—									
屋 外 施 設	安全対策 機能性	B									
その他	バリアフリー	C									
経済性	利用状況	D	劣								
	維持管理費用	A									
耐震性	耐震基準	—	対象外								

稼働率や利用者数での評価が低くなっています。

通常の利用は、地域住民が多く柔軟な利用を図るうえでも地域へ譲渡を行います。

18 青山矢持グラウンド（旧矢持小学校グラウンド）

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	—	良	維持	現状維持	改廃	譲渡
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋 外 施 設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	C					
経済性	利用状況	D	劣				
	維持管理費用	A					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

稼働率や利用者数での評価が低くなっています。

通常の利用は、地域住民が多く柔軟な利用を図るうえでも地域への譲渡を行います。

19 上野運動公園テニスコート

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	—	良	維持	現状維持	改善	他機能・機能集約化
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋 外 施 設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	C					
経済性	利用状況	B	良				
	維持管理費用	A					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

稼働率とコスト状況は高いものの、住宅地に立地しているため夜間照明やボールの越境などによる苦情が寄せられることもあります。

また、伊賀上野武道館と上野運動公園と隣接しスポーツ施設としては集約されていますが、駐車台数が少なく、かつコート数も現状6面であることから規模の大きな大会が開催できないことがあります。さらに専用管理事務所を設けていることから、一括管理できる他施設（いがまちスポーツセンターを想定）へ機能移転と集約を行います。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 機能移転後の解体工事	* 検討 機能移転後の用地活用方法

20 上野緑ヶ丘テニスコート

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 設	安全性	—	良	維持	現状維持	改廃	譲渡
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋 外 設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	C					
経済性	利用状況	B	良				
	維持管理費用	A					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

評価各項目は低くはないものの、伊賀市立緑ヶ丘中学校テニスコートと隣接しています。
施設への進入路は狭く、また専用駐車場も完備されておらず、利用形態は学校授業やクラブ活動での利用が多いことから教育委員会への管理主体の変更を検討します。

21 ゆめが丘テニスコート

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 設 施 設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋 外 設 施 設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	B					
経済性	利用状況	B	良				
	維持管理費用	A					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

各項目において極端に劣るものではなく、稼働率も高くなっています。周囲に人家もなく都市公園施設の一角に設置され、加えて企業が立地するエリアに近いなど立地環境が良い為、継続して維持管理を行ないます。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① コート人工芝改修工事	② 照明機器 LED 化改修工事

22 いがまちスポーツセンターテニスコート

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	—	劣	改善	機能改修	改善	他機能・機能集約化
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋 外 施 設	安全対策	C					
	機能性						
その他	バリアフリー	A	良				
経済性	利用状況	C					
	維持管理費用	B					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

旧伊賀町で設置された総合運動公園の一部であり、周囲に人家もなく名阪国道からのアクセスは良く駐車場も広がっています。

各評価項目で極端に劣るものはなく、バリアフリー度も高くなっています。

現在5面のコートがありますが、増設によりトータル10面程度のコート設置が可能で、整備後は規模の大きな大会を開催することが可能であることから、他コートからの機能移転を受け入れるとともに維持管理を継続します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 集約コート増設、既存コート改修工事 （照明機器増設及びLED化改修含む）	

23 阿山第1運動公園テニスコート

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋 外 施 設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	B	良				
	維持管理費用	B					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

隣接する第1・第2運動公園グラウンド及びB&G海洋センターと一体となる総合スポーツセンターであり、各評価も平準化しており維持管理を継続します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 人工芝改修工事	② 照明機器LED化改修工事

24 青山テニスコート

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	—	劣	改廃	廃止	改廃	廃止
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋 外 施 設	安全対策	C					
	機能性						
その他	バリアフリー	C					
経済性	利用状況	D	劣				
	維持管理費用	D					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

全ての項目で低評価となっていることから廃止し、利用形態については検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 廃止に伴う解体整地工事	

25 しらさぎ運動公園ゲートボール場

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	—	良	維持	現状維持	改善	他機能・機能集約化
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋 外 施 設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	D	劣				
	維持管理費用	D					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

利用がほぼ無い状況のため、競技団体の意見を聴きながら他用途への変更を行います。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
* 検討 他用途化に向けた検討	* 検討 他機能（他用途）化工事

26 いがまちスポーツセンターゲートボール場

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	—	良	維持	現状維持	改善	他機能・機能集約化
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋 外 施 設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	D	劣				
	維持管理費用	B					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

利用がほぼ無い状況のため、競技団体等の意見を聞きながら用途変更（テニスコート、休憩所等）を検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
* 検討 他用途化に向けた検討	* 検討 他機能（他用途）化工事

27 阿山第1運動公園ゲートボール場

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性					
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法				
屋 内 施 設	安全性	A	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化				
	機能性	B									
	法令適合性	A									
屋 外 施 設	安全対策	—									
	機能性										
その他	バリアフリー	A									
経済性	利用状況	A	良								
	維持管理費用	A									
耐震性	耐震基準	新	問題なし								

ゲートボールやグラウンド・ゴルフなどに加え、全天候型の屋内施設であり構造安全性、稼働率での評価が格段に高く、各種イベントでの利用もあることから長寿命化を図ります。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
	① 照明器具 LED 化改修工事

28 阿山B&G海洋センタープール

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	B	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	機能性	B					
	法令適合性	B					
屋 外 施 設	安全対策	—					
	機能性						
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	D	劣				
	維持管理費用	B					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

夏期限定運用施設ですが、大山田B&G海洋センタープールと併せ継続して維持管理を行い、さらに水泳教室や屋内カヌー教室（SAP）等、ソフト事業の開催を検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
	① プール施設大規模改修工事 躯体防錆塗装工事、照明機器 LED 化改修工事、ろ過・塩素注入機器更新工事

29 大山田B&G海洋センタープール

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	B	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	機能性	B					
	法令適合性	B					
屋 外 施 設	安全対策	—					
	機能性						
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	D	劣				
	維持管理費用	B					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

阿山B&G海洋センタープールと併せ継続して維持管理を行い、さらに水泳教室や屋内力ヌー教室（SAP）等、ソフト事業の開催を検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① プール施設大規模改修工事 躯体防錆塗装工事、上屋テント改修工事、照明機器LED化改修工事、ろ過・塩素注入機器更新工事	

30 伊賀上野武道場

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	C	良	維持	長寿命化	維持	新設・建替 （長寿命 化）
	機能性	B					
	法令適合性	B					
屋 外 施 設	安全対策	—					
	機能性	—					
その他	バリアフリー	B					
経済性	利用状況	B	良				
	維持管理費用	—					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

構造安全性、稼働率、コスト状況については評価が高い一方、耐用年数を超過するなど施設の老朽化が非常に進行しています。

一方、当該施設は市内唯一の武道場でもあり、日常の維持管理を継続しつつ弓道場と併せ総合的な武道場として他所への移転、又は現状施設の長寿命化について検討を行います。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（２０２１年～２０２５年）	後期（２０２６年～２０３０年）
*検討 移転（長寿命化）の検討	*検討 移転（長寿命化）工事

31 伊賀市民弓道場

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	C	劣	改善	耐震改修	改善 (維持)	耐震改修 (新設・建 て替え)
	機能性	C					
	法令適合性	B					
屋 外 施 設	安全対策	—					
	機能性	—					
その他	バリアフリー	C					
経済性	利用状況	A	良				
	維持管理費用	—					
耐震性	耐震基準	旧	問題あり				

構造安全性・老朽化状況についての評価が低く、耐用年数を超過するなど施設の老朽化が非常に進行しています。利用者数は少ないものの唯一の弓道場で競技団体を中心とした稼働率も高いため、日常の維持管理を継続しつつ現在の武道場と併せ総合的な新武道場として移転の検討も行います。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（２０２１年～２０２５年）	後期（２０２６年～２０３０年）
① あづち改修工事 *検討 移転の検討 耐震改修	*検討 移転工事

32 阿山B&G海洋センター艇庫

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	C	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	機能性	B					
	法令適合性	B					
屋 外 施 設	安全対策	—					
	機能性	—					
その他	バリアフリー	B	劣				
経済性	利用状況	D					
	維持管理費用	—					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

カヌー等を格納する施設であるため、当面倉庫機能として継続し、ソフト面での各種教室の定期開催について検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
	① 艇庫維持管理修繕工事

33 大山田B&G海洋センター艇庫

評価項目		ガイドラインによる評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評 価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋 内 施 設	安全性	C	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	機能性	B					
	法令適合性	B					
屋 外 施 設	安全対策	—					
	機能性	—					
その他	バリアフリー	B	劣				
経済性	利用状況	D					
	維持管理費用	—					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

カヌー等を格納する施設であるため、当面倉庫機能として継続し、ソフト面での各種教室の定期開催について検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
	① 艇庫維持管理修繕工事

34 上野運動公園多目的グラウンド（令和3年4月稼働）

上野運動公園プール跡地に、2021（令和3）年開催の国民体育大会時のウォーミングアップ会場として利用できる多目的グラウンドを整備します。国民体育大会終了後は、ウォーミングアップスペースを残しつつ、多様なスポーツニーズに対応するための施設として整備します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
*検討 ニーズに合わせた施設改修検討	*検討 他機能（他用途）化整備工事

各施設の整備の方向性・整備手法、スケジュール等一覧

施設 番号	施設 エリア	施設 種別	施設名	設置年	国のガイドライン による評価結果		個別施設の 方向性・整備手法		整備・検討の概要	整備・検討スケジュール	
					方向性	整備手法	方向性	整備手法		前 期 (令和3年度から令和7年度)	後 期 (令和8年度から令和12年度)
1	上野	競技場	上野運動公園競技場	1975	維持	現状維持	維持	現状維持	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向上を図るための改修を行う。 ・「伊賀FCくノ一三重」のホームグラウンドでもあり、プロ基準（G3）における施設改修の実現にむけて運営に携わる方が主体となって、様々な検討を進める。	現状維持 シャワー等諸室整備工事 スコアボード等塗装工事	【検討項目：陸上トラック設備改修工事】 【検討項目：スポーツセンター事務所改修工事】
2	上野	野球場	上野運動公園野球場	1963	維持	現状維持	維持	現状維持	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向上を図るための改修を行う。	現状維持 ダダアウトレイ改修工事	3塁側防球ネット設置工事 照明機器改修工事
3	上野	体育館	伊賀市民体育館	2000	維持	長寿命化	維持	長寿命化	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向上を図るための改修を行う。 ・観客席や空調設備の整備について検討する。	長寿命化 照明機器改修工事	諸室・トイレバリアフリー化改修工事
4	阿山	体育館	阿山B&Q海洋センター体育館	1989	維持	長寿命化	維持	長寿命化	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向上を図るための改修を行う。 ・「伊賀あやまスポレク」整備管理方法については、文化キヤンパス」による整備管理主体との整合性を検討する。	長寿命化 照明機器改修工事	トレーニング備品更新新設備 照明機器改修工事
5	大山田	体育館	大山田B&Q海洋センター体育館	1988	維持	長寿命化	維持	長寿命化	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向上を図るための改修を行う。	長寿命化 照明機器改修工事	トレーニング備品更新新設備
6	大山田	体育館	大山田東体育館	1994	改廃	廃止	改廃	譲渡	自治組織等の地域団体へ譲渡を行う。	譲渡 地域説明	
7	青山	体育館	青山児童屋内運動場	1982	改廃	廃止	改廃	譲渡（廃止）	自治組織等の地域団体へ譲渡を行う。なお老朽化が激しい場合は、解体も検討する。	譲渡（廃止） 地域説明	
8	青山	体育館	青山高尾体育館	1988	改廃	廃止	改廃	譲渡（廃止）	自治組織等の地域団体へ譲渡を行う。	譲渡（廃止） 地域説明	
9	上野	多目的グラウンド	ゆめが丘多目的グラウンド	2000	維持	現状維持	維持（改善）	現状維持（他機能・機能集約化）	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向上を図るための改修を行う。 ・人工芝に及び現状の電照照明車による仮設照明方式から常設照明への改修について検討をする。	【検討項目：暗渠排水改修・人工芝化工事】	【検討項目：照明設備設置工事】
10	上野	多目的グラウンド	しらせ運動公園屋内多目的グラウンド	2014	維持	長寿命化	維持	長寿命化	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向上を図るための改修を行う。	長寿命化	
11	烏ヶ原	多目的グラウンド	烏ヶ原運動広場	2007	維持	現状維持	維持	現状維持	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向上を図るための改修を行う。	現状維持 グラウンド不陸整正・外構排水工事	
12	伊賀	多目的グラウンド	いがまちスポーツセンターグラウンド	1982	維持	現状維持	維持	現状維持	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向上を図るための改修を行う。	ソフトボール防球ネット配備	【検討項目：暗渠排水改修・不陸整正工事】 照明機器改修工事
13	阿山	多目的グラウンド	阿山第1運動公園グラウンド	1983	維持	現状維持	維持	現状維持	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向上を図るための改修を行う。 ・「伊賀あやまスポレク」整備管理方法については、文化キヤンパス」による整備管理主体との整合性を検討する。	現状維持 照明機器改修工事 屋外トイレ設備改修工事	

施設番号	施設エリア	施設種別	施設名	設置年	国のガイドラインによる評価結果		個別施設の方向性・整備手法		整備・検討の概要	整備・検討スケジュール	
					方向性	整備手法	方向性	整備手法		前 期 (令和3年度から令和7年度)	後 期 (令和8年度から令和12年度)
14	阿 山	多目的グラウンド	阿山第2運動公園グラウンド	1988	維持	現状維持	維持	現状維持	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向上を図るための改修を行う。 ・整備管理方法については、「伊賀あやまスポレク文化キャンプ」による整備管理主体との整合性を検討する。	現 状 維 持 法面等設置対策保護工事	【検討項目：照明設備設置工事】 【検討項目：暗渠改修及び人工芝化工事】
15	大 山	多目的グラウンド	大山田東グラウンド	—	維持	現状維持	改廃	譲渡	自治組織等の地域団体へ譲渡を行う。	譲 渡 地域説明	
16	青 山	多目的グラウンド	青山グラウンド	1997	維持	現状維持	維持(改善)	現状維持(他機能・機能集約化)	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向上を図るための改修を行う。 ・他機能化について検討を行う。	現 状 維 持(他機能・機能集約化)	【検討項目：他機能(他用途)化工事】 照明機器改修工事
17	青 山	多目的グラウンド	青山高尾グラウンド	—	維持	現状維持	改廃	譲渡	自治組織等の地域団体へ譲渡を行う。	譲 渡 地域説明	
18	青 山	多目的グラウンド	青山矢持グラウンド	—	維持	現状維持	改廃	譲渡	自治組織等の地域団体へ譲渡を行う。	譲 渡 地域説明	
19	上 野	テニスコート	上野運動公園テニスコート	1980	維持	現状維持	改善	他機能・機能集約化	・機能移転を行うまでの間は、日常的な管理上必要な修繕を継続する。 ・機能移転と集約(指定：いがまちスポーツセンター)を行うとともに、集約後の土地利用について検討する。	他機能・機能集約化 競技団体説明	
20	上 野	テニスコート	上野緑ヶ丘テニスコート	1956	維持	現状維持	改廃	譲渡	・機能移転を行うまでの間は、日常的な管理上必要な修繕を継続する。 ・機能移転と集約(指定：いがまちスポーツセンター)を行うとともに、集約後の土地利用について教育委員会へ学校用地として移譲を検討する。	譲 渡 競技団体や教育委員会説明	
21	上 野	テニスコート	ゆめが丘テニスコート	1997	維持	現状維持	維持	現状維持	日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向上を図るための改修を行う。	現 状 維 持 人工芝改修工事	照明機器改修工事
22	伊 賀	テニスコート	いがまちスポーツセンターテニスコート	1992	改善	機能改修	改善	他機能・機能集約化	・日常的な管理上必要な修繕を継続する。 ・機能移転受け入れによりコートを増設するとともに、現在の使用不能コートの改修を行う。	他機能・機能集約化 集約コート新設・既存コート改修工事	
23	阿 山	テニスコート	阿山第1運動公園テニスコート	1983	維持	現状維持	維持	現状維持	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向上を図るための改修を行う。 ・整備管理方法については、「伊賀あやまスポレク文化キャンプ」による整備管理主体との整合性を検討する。	現 状 維 持 人工芝改修工事	照明機器改修工事
24	青 山	テニスコート	青山テニスコート	—	改廃	廃止	改廃	廃止	敷地の利用形態について検討する。	廃 止 地域説明	
25	上 野	ゲートボール場	しらさぎ運動公園ゲートボール場	2014	維持	現状維持	改善	他機能・機能集約化	他用途への変更について検討する。	他機能・機能集約化	【検討項目：他機能(他用途)化工事】
26	伊 賀	ゲートボール場	いがまちスポーツセンターゲートボール場	1992	維持	現状維持	改善	他機能・機能集約化	他用途への変更について検討する。	多機能・機能集約化	【検討項目：他機能(他用途)化工事】

施設 番号	施設 エリア	施設 種別	施設名	設置年	国のガイドライン による評価結果		個別施設の 方向性・整備手法		整備・検討の概要	整備・検討スケジュール	
					方向性	整備手法	方向性	整備手法		前 期 (令和3年度から令和7年度)	後 期 (令和8年度から令和12年度)
27	阿 山	ゲート ボール場	阿山第1運動公 園ゲートボール 場	1986	維持	長寿命化	維持	長寿命化	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向 上を図るための改修を行う。 ・整備管理方法については、「伊賀あやまスポレク 文化キャンパス」による整備管理主体との整合性を検 討する。	長 寿 命 化	照明機器改修工事
28	阿 山	プー ル	阿山B&G海洋セ ンタープール	1989	維持	長寿命化	維持	長寿命化	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向 上を図るための改修を行う。 ・整備管理方法については、「伊賀あやまスポレク 文化キャンパス」による整備管理主体との整合性を検 討する。	長 寿 命 化	大規模改修工事
29	大 山	プー ル	大山田B&G海洋 センタープール	1988	維持	長寿命化	維持	長寿命化	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向 上を図るための改修を行う。	長 寿 命 化	大規模改修工事
30	上 野	武道場	伊賀上野武道館	1983	維持	長寿命化	維持	新設・建替 (長寿命化)	・日常的な管理上必要な修繕を継続する。 ・移転について検討を行う。	新設・建替(長寿命化)	【検討項目: 建替・移転工事】
31	上 野	弓道場	伊賀市民弓道場	1973	改善	耐震改修	改善 (維持)	耐震改修 (新設・建 替)	・日常的な管理上必要な修繕を継続する。 ・武道館と併せて暫くして検討を行う。	あづち改修工事	【検討項目: 建替・移転工事】
32	阿 山	艇庫	阿山B&G海洋セ ンター艇庫	1989	維持	長寿命化	維持	長寿命化	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向 上を図るための改修を行う。 ・整備管理方法については、「伊賀あやまスポレク 文化キャンパス」による整備管理主体との整合性を検 討する。	長 寿 命 化	艇庫維持管理工事
33	大 山	艇庫	大山田B&G海洋 センター艇庫	1988	維持	長寿命化	維持	長寿命化	・日常的な管理上必要な修繕を継続し、利用環境の向 上を図るための改修を行う。	長 寿 命 化	艇庫維持管理工事
34	上 野	多目的 グラウンド	上野運動公園多 目的グラウンド	2020	維持	現状維持	維持 (改善)	現状維持 (他機能・機 能集約化)	・日常的な管理を行い必要な修繕を実施。 ・競技場や野球場の利用状況や利用ニーズ、施設周 辺における住環境の変化により機能等について検討 する。	現 状 維 持 (他機能・機能集約化)	【検討項目: 他機能(他用途)化工事】

4 計画実施による事業費の効果

スポーツ施設の今後の方向性や整備手法に基づき、見込まれる事業内容を示してきました。次にこれに基づき想定される事業費の総額、及び施設数の削減による指定管理料など日常の管理における経常経費などの削減効果は、おおよそ次のとおりです。

項 目	前期	後期	合計
(ア) 現行施設の経常経費（直営・指定管理料等）	7.5 億	7.5 億	15.0 億
(イ) 現行施設の整備経費	11.8 億	11.5 億	23.3 億
① 小 計 （ア＋イ）	19.3 億	19.0 億	38.3 億
(ウ) 削減した場合の経常経費（直営・指定管理料等）	7.4 億	7.0 億	14.4 億
(エ) 削減した場合の整備経費	10.5 億	9.5 億	20.0 億
② 小 計 （ウ＋エ）	17.9 億	16.5 億	34.4 億
削減効果見込額（①－②）	1.4 億	2.5 億	3.9 億

これによると、経常経費面（人件費、光熱水費等の物件費など）は、そもそも当該施設の規模が小さく、さらに維持管理経費が大きくない施設であるため短期間での削減効果は低くなっているものの、対応が後年に行くにつれ当然削減効果も大きくなります。

一方、削減等の対応をしない場合でも、対象施設自体が古いことに起因する劣化が加速し、絶えず新たな修繕工事や大規模な劣化予防工事、将来の建替えが発生することが予期され、同じ規模であっても施設数が多い場合、莫大な経費を要することが予想されます。

一般的にスポーツ施設は施設面積が大きく、加えて照明設備やグラウンド舗装などに専用設備を施し、一般修繕に加え劣化防止の予防的修繕についても実施する必要があるため整備費用は大きくなる傾向にあります。このため、施設数や改修内容さらには維持管理手法や運用面などについても検討を行うことが必要です。

5 計画の推進にあたって

(1) 計画の進行管理及び推進

本計画の進行において、施設別方針の変更や、具体化する計画の内容に修正・変更・追加等があった場合は見直しを図り、スポーツ推進審議会等での管理による進捗を図ります。

また、伊賀市の描く行政分野の施策・事業全体の状況も勘案しながら柔軟かつ着実な計画の推進を図ります。

(2) 「生涯スポーツ都市宣言」に対応した施策の展開

伊賀市では、2017（平成29）年2月に「生涯スポーツ都市」を宣言し、今後さらに進む高齢化社会において、市民の健康増進や生きがいづくりの観点からも、「ウォーキング」や「グラウンド・ゴルフ」、「ボッチャ」をはじめ、「軽スポーツ」を推進することとしています。

さまざまな競技スポーツだけでなく、軽スポーツ・生涯スポーツも含めたあらゆるスポーツを推進するために、学校開放事業を展開するための市内の小中学校施設も考慮することとします。

また、2019（令和元）年8月にスポーツ庁が示した（注8）「スポーツ実施率向上のための中長期的な施策」を参考にし、施設の利用率が高まるよう、ライフステージに応じた庁内横断した部署の連携の中、スポーツ活動の推進や利用団体等からアイデアを募るなど、施設の利用促進策についても検討します。

(3) 公民連携の推進

行政と民間事業者が協働で公共サービスの提供等を行う「公民連携」は、これまで自治体が単独で取り組んできた分野に、民間の知恵やアイデア、資金や技術、ノウハウを取り入れ、住民サービスの向上や業務効率のアップ、地域経済の活性化などをはかるものです。具体的にはPFI事業をはじめ、指定管理者制度、公設民営、包括的民間委託、自治体業務のアウトソーシング、ネーミングライツ、定期借地活用などのさまざまな手法があり、今後、スポーツ施設の安定した運営や財源確保等において公民連携の手法を推進します。

(4) 財源の確保

本計画の推進では、多額の予算投入が必要であり計画に基づいた施設整備を行う必要があります。

このためには、国庫補助金・交付金や（注9）スポーツ振興くじ助成金の活用を図るなど財源の確保を図ることとともに、施設利用料における受益者負担のあり方についても検討を行います。

また、施設移転や廃止などにより生じた土地についても、他の行政目的に支障が生じない程度において売却など積極的な処分を行います。

（５）長期的視点に立った施設の整備

スポーツ施設の設置形態は、一般的に単一競技に特化したものと多くの種目が可能な複合施設に大別されますが、快適で安全な実施環境を整えることが大切です。この為には限られた財源を集中的に投入する必要があるため、複合化や集約などについて計画年度途上においても社会情勢にも留意しながら継続して検討を行うこととします。

（６）広域的利用の検討

スポーツ施設は従前から、各市町村によって整備されていることが多く、隣接市町村に類似の施設が整備されていることもあります。

このため、就労や買い物などで一定の圏域を構成する定住自立圏などでの相互の施設整備の可能性、あるいは廃止した場合における相互活用等について情報共有など市町村を跨いだ検討を行うこととします。

（注８） スポーツ実施率の飛躍的な向上に向け、成人の週 1 回以上のスポーツ実施率を 65%程度（障害者は 40%程度）」に達成することを目標とする。

（注９） スポーツ振興くじとは、サッカーの試合を対象に試合の結果（勝敗・得点）を予想する「toto」や予想せずに購入できる「BIG」など。収益は、地域スポーツの振興や競技水準の向上等、スポーツ振興の財源とされる。

資 料

1 スポーツ施設再編・整備計画策定の経過

年 月 日		会議名等	内 容
2018 年 (平成 30 年)	4 月 26 日	第 1 回審議会	伊賀市体育施設再編計画の策定について（諮問） 伊賀市体育施設再編計画策定に向けての検討課題
	6 月 29 日	第 2 回審議会	体育施設に関する市民アンケートの実施について
2019 年 (令和元年)	2 月 26 日～ 2 月 28 日	意見交換	伊賀市サッカー協会代表者と意見交換 伊賀市ソフトテニス協会・テニス協会代表者と意見交換
	3 月 4 日～ 3 月 7 日	意見交換	伊賀市野球協会・ソフトボール協会代表者と意見交換 伊賀市剣道連盟・少林寺拳法協会代表者と意見交換 伊賀市バスケット協会・バレーボール協会・卓球協会・ バドミントン協会代表者と意見交換
	5 月 17 日	第 1 回審議会	伊賀市体育施設再編計画策定方針について 伊賀市体育施設再編計画構成について 体育施設に関する市民アンケート結果について
	8 月 6 日	第 2 回審議会	伊賀市スポーツ施設再編計画の素案について
	10 月 16 日	第 3 回審議会	伊賀市スポーツ施設再編計画の素案について
	12 月 26 日	第 4 回審議会	伊賀市スポーツ施設再編計画の素案について
2020 年 (令和 2 年)	2 月 19 日	庁内検討	庁内関係課と調整会議
	8 月 25 日	第 1 回審議会	伊賀市スポーツ施設再編・整備計画の素案について
	9 月 30 日	第 2 回審議会	伊賀市スポーツ施設再編・整備計画の素案について
	10 月 23 日	第 3 回審議会	伊賀市スポーツ施設再編・整備計画の中間案について
2021 年 (令和 3 年)	1 月 14 日	第 4 回審議会	伊賀市スポーツ施設再編・整備計画（伊賀市スポーツ施設ストック適正化計画）の中間案について
	1 月 27 日	庁内検討	庁内関係課との調整会議
	2 月 3 日	庁内協議	伊賀市ファシリティマネジメント推進会議で協議
	2 月 4 日	庁内協議	伊賀市総合政策会議で協議
	2 月 8 日～ 2 月 9 日	意見聴取	伊賀市スポーツ協会加盟団体代表者への説明、及び意見聴取
	3 月 1 0 日	議会協議	伊賀市議会議員全員協議会で協議

	3月11日～ 4月16日	意見募集 (パブリック コメント)	市民等からの意見募集 再編・整備計画(案)の公表(ホームページ等)
	4月30日	第5回審議会	パブリックコメントの実施結果について 伊賀市スポーツ施設再編・整備計画(伊賀市スポーツ施設ストック適正化計画)の答申案について
	5月13日	答申	伊賀市スポーツ施設再編・整備計画(伊賀市スポーツ施設ストック適正化計画)(案)について(答申)
	5月31日	伊賀市スポーツ施設再編・整備計画(伊賀市スポーツ施設ストック適正化計画)策定	

2 諮問・答申

伊 又 第 1626 号
平成 30 年 4 月 26 日

伊賀市スポーツ推進審議会
会長 松 寄 敏 之 様

伊賀市長 岡 本 栄

伊賀市体育施設再編計画の策定について（諮問）

6市町村の合併により誕生した伊賀市は、他自治体に比べ人口一人あたりの公共施設保有量が多く、人口減少社会を迎えている社会経済状況の中では、現状の施設をこのまま維持して公共サービスを継続することが困難です。

そこで、将来に渡り持続可能な自治体運営を目指して、全ての公共施設を対象に平成 27 年 3 月に伊賀市公共施設最適化計画を策定し、取り組みを開始しました。この計画の中では、市の各体育施設について、縮小、一部縮小、複合化などの方向を定めておりますが、スポーツ振興の視点からも各体育施設のあり方を検討する必要性を感じているところです。

つきましては、他の施設と同様、総量の縮減や機能の複合化といった公共施設最適化計画の主旨も踏まえつつ、伊賀市生涯スポーツ都市宣言との調和を図るための体育施設のあり方について検討いただきますよう「伊賀市スポーツ推進審議会に関する条例第 2 条」の規定に基づき諮問します。

2021（令和3）年5月13日

伊賀市長 岡本 栄 様

伊賀市スポーツ推進審議会
会長 松寄 敏之

伊賀市体育施設再編・整備計画について（答申）

平成30年4月26日付伊ス第1626号で当審議会へ諮問されたこのことについて、慎重に審議を重ねた結果、別添のとおり答申します。

審議にあたっては、体育施設に関する市民アンケート調査結果から市民のスポーツ実施状況やニーズ、また施設整備する際に重視すべき点などについてお聞きするとともに、各体育施設の現状について設置状況や利用者数、維持管理コストについて審議を行いました。

その中で、①旧市町村から引き継いだ類似の零細施設が各地に分散立地し駐車場も少なく規模の大きな大会が開催できないこと、②老朽化が非常に進行し、バリアフリー化や更衣室、シャワー室などの設備が充実していないこと、③今後これらの施設を維持していくには財政面で大きな負担が見込まれていることなど、様々な課題も明らかになりました。

これらのことから、国におけるインフラ長寿命化のための個別方針である「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン」を準用した各施設における安全・機能性、経済性、耐震性の評価結果をもとに、施設立地状況や同じ種目の類似性、あるいは老朽度などを総合的に検討し、各施設の今後の整備方針として令和3年度を始期とする10年間の再編・整備計画及び、インフラ施設の長寿命化を目指す「ストック適正化計画」として取りまとめを行いました。

今後貴市が本計画を進める際には、本答申書の内容にご留意いただき、市民等の意見に対し十分耳を傾けながら事業を推進するよう要請するとともに、市民等のスポーツ振興に資することを心から祈念します。

3 伊賀市スポーツ推進審議会に関する条例

平成 17 年 3 月 14 日条例第 7 号

改 正

平成 20 年 4 月 28 日条例第 29 号

平成 23 年 12 月 28 日条例第 30 号

平成 26 年 3 月 28 日条例第 4 号

伊賀市スポーツ推進審議会に関する条例

(設置)

第 1 条 スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号。以下「法」という。）第 31 条の規定に基づき、伊賀市スポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(任務)

第 2 条 審議会は、法第 35 条に規定するもののほか、市長の諮問に応じ、スポーツの推進に関する次に掲げる事項について調査審議し、これらの事項に関して市長に建議する。

- (1) スポーツの施設及び設備の整備に関すること。
- (2) スポーツの指導者の養成及びその資質の向上に関すること。
- (3) スポーツの事業の実施及び奨励に関すること。
- (4) スポーツの団体の育成に関すること。
- (5) スポーツによる事故の防止に関すること。
- (6) スポーツの技術水準の向上に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、スポーツの推進に関すること。

(組織)

第 3 条 審議会は、15 人以内の委員で組織する。

2 特別の事項を調査審議するために、必要があるときは、審議会に臨時委員を置くことができる。

(会長等)

第 4 条 審議会に会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によってこれを定める。
- 3 会長は、審議会を代表し、議事その他の会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(任期)

第 5 条 審議会の委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 審議会の委員は、再任されることができる。

3 臨時委員の任期は、特別の事項に関する調査審議を終了したときに、終わるものとする。

（議事）

第6条 審議會は、委員及び議事に関係のある臨時委員の総数の半数以上の者が出席しなければ會議を開き、議決することができない。

2 審議會の議事は、委員及び議事に関係のある臨時委員のうち出席した者の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（庶務）

第7条 審議會の庶務は、企画振興部スポーツ振興課において処理する。

（委任）

第8条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は、市長が定める。

附 則

この条例は、平成 17 年4月 1 日から施行する。

附 則（平成 20 年4月 28 日条例第 29 号）

この条例は、公布の日から施行し、改正後の伊賀市スポーツ振興審議會に関する条例の規定は、平成 20 年4月 1 日から適用する。

附 則（平成 23 年 12 月 28 日条例第 30 号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成 26 年3月 28 日条例第 4 号）

（施行期日）

1 この条例は、平成 26 年4月 1 日から施行する。

4 伊賀市スポーツ推進審議会委員名簿

役 職	氏 名	所 属 等	備 考
会 長	松 崎 敏之	伊賀市スポーツ協会 会長	
副会長	宮 田 久一	伊賀市スポーツ推進委員協議会 会長	
委 員	坂 口 輝三	伊賀市スポーツ少年団 本部長	
	稲 濱 多蔵	伊賀市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長	2018 年 8 月 31 日まで
	田 中 栄一	伊賀市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長	2018 年 9 月 1 日から
	宮 田 慎一	伊賀市校長会	
	栗 野 仁博	伊賀 F C くノー三重 副代表	2018 年 9 月 1 日から
	谷 川 康子	伊賀市家庭婦人バレーボール連絡協議会 副会長	2018 年 8 月 31 日まで
	山 下 明子	伊賀市家庭婦人バレーボール連絡協議会 副会長	2018 年 9 月 1 日から
	福 寿 勇	伊賀市グラウンド・ゴルフ協会 会長	
	山 本 志賀子	伊賀市障害者福祉連盟	
	今 中 美紀	伊賀市健康づくり推進協議会	2018 年 8 月 31 日まで
	内 田 崇之	伊賀市健康づくり推進協議会	2019 年 4 月 1 日から
	辻 喜嗣	伊賀市レクリエーション協会 理事長	
	樋 口 優子	上野商工会議所	
	高 橋 春光	公募委員	2018 年 8 月 31 日まで
	前 山 正清	公募委員	2018 年 9 月 1 日から 2020 年 8 月 31 日まで
	山 本 いづみ	公募委員	2020 年 9 月 1 日から
	中 森 正一	公募委員	2020 年 9 月 1 日から

伊賀市生涯スポーツ都市宣言

宣言文

スポーツは、心と体の健康を育むとともに、人と人との交流を深め、明るく活力に満ちた生きがいのある生活を送るうえで重要な役割を果たしています。私たち市民一人ひとりが、生涯にわたりスポーツに親しみ、健康で明るいまちづくりを推進するため、ここに「生涯スポーツ都市」を宣言します。

- ー スポーツに親しみ 健康な心身をつくれます
- ー スポーツを楽しみ 思いやりとふれあいの輪を広げます
- ー スポーツを通して 明るく活力ある伊賀市をつくれます

伊賀市生涯スポーツ都市宣言 説明文

少子高齢化社会を迎え、人々の価値観やライフスタイルが多様化する今日において、スポーツは、人生をより健康で充実したものにするために欠くことができないものとして、その重要性がますます高まっています。

伊賀市は、古くから伊賀流忍者の里であり、現在健康づくりの忍にん体操から、スポーツ・レクリエーション、競技スポーツ、武道に至るまで、さまざまなスポーツが盛んに行われています。

2018（平成30）年には「2018 彩る感動東海総体」（平成30年度全国高等学校総合体育大会）、2021（平成33）年には「三重とこわか国体」（第76回国民体育大会）が伊賀市で開催されることを契機に、生涯スポーツ都市宣言を行ない、市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ都市の実現に向けて、スポーツの持つ可能性を最大限に活かし、生涯にわたってスポーツを「する」、「見る」、「支える」ことで、人と人とのつながりを育み、健康で明るい伊賀市を目指します。

伊賀市スポーツ施設再編・整備計画
(伊賀市スポーツ施設ストック適正化計画)

発 行	 伊賀市
発行年月	2021（令和3）年5月
編 集	伊賀市企画振興部スポーツ振興課 〒518-8501 三重県伊賀市四十九町 3184 番地 TEL 0595-22-9635 FAX0595-22-9694 E-mail sports@city.iga.lg.jp